結 核 第 八 卷 第 六 號 昭 和 五 年 六月 二 十

四日發行

著

原

結核性脊椎炎患者,流注膿瘍中ニ含有セラレタル

「イムペヂン」ノ立證

京都帝國大學醫學部外科學研究室(鳥潟教授指導

林

茂

第一章 緒 言

患者ノ膿汁中ニ「イムペヂン」ヲ喰菌作用ヲ指標トシテ立證セリ。 菌ニ感染シタル動物ノ各臓器ニ就キテ沈澱反應ヲ指標トシテ立證セラレ、近者廣瀨氏モ亦種々ノ細菌ニ起因シタル膿胸 ニ繁殖スル場合ニモ同様ノ勢力ヲ發揮スルモノニシテ這ハ旣ニ鳥潟教授(一九一七)ニ依リテ肺炎菌又ハ「パラチフス」B ト等シク必ズ「イムペヂン」ヲ産生シ以テ免疫成立機轉ヲ阻害スルモノアルノ事實ヲ明白ニ立證セリ。 余等ハ曩ニ結核菌ヲ人工培養基上ニ移シタル場合ニ培養基ノ種類(液性乃至固形培養基)ノ如何ニ關セ ン」ナルモノハ細菌體ノ自家防禦ノ具トシテ産生スルー種ノ物質 (勢力) ナレバ單ニ人工培養基上ノミナラズ感染組織内 而シテ ズー般病原微生物 「イムペヂ

原 著 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

余等ハ今茲ニ結核性脊椎炎患者ノ流注膿ヲ可檢材料トナシ果シテ其ノ中ニ「イムペヂン」ヲ證明シ得ル

ヤ否ヲ檢セント

欲

뗈ル シ、 此ノ内ニ菌體ヨ 以テ無菌性膿 菌ノ存否モ [來結核性膿汁 適當ナル材料ト謂フ可キナリ。 丽 モーイ 不確ニシテ且ツ長キ年月ノ間持續シ ムペヂン」含有ノ有無ハ菌體其ノ物ニアルニ非ズシテ此ノ水溶解性菌物質ノ存在ヲ以テ足ル y サ 産生セル毒素又ハ 稱 般急性炎症ノ膿ト異リ其ノ中ニ果シテ結核菌ヲ混入ス スル 者モ アリ、 菌體 然レド 水溶解性物質ノ混 ŧ 居 膿中ニ於ケル菌體 n 結核性流注膿 在シ プ證明 居ルベ 如キ モ + jν 困 コトハ何人ト雖モ 否定シ能ハザ 難 ヤ否ヤハ疑義ノ存 = ソハ「イムペヂン」ヲ吟味 = シテ其ノ結果ハ ス 7 N 所一 シ 陰 性 シ ス モ テ jν 結核 ナ 終 目 所 レ 性 的 病原 ıν 雖 膿 べ ヲ Æ

二章 供試材料

、原液及ビ煮沸濾液

差異ナカリキ。 分及ビ百二十分間煮沸シ三種· 略~透明トナリタル液狀部ノ二部分ニ分ル。 攝氏百度ニテ沸騰シツ・アル重湯煎中デ五分間加熱シタルニ可凝性蛋白ハ塊狀又ハ鷄卵ノ半熟樣トナリ白濁、 リ之ヲ原液トナシ 定量□○・五%石炭酸加○・八五%食鹽水ノ一 シクハ是レヲ一定時間氷室中ニ放置シタ 結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍ヨリ穿刺 部 其 ノ儘保存シ、 ノ煮沸濾液ヲ作リタリ、 = 他ハ w 3 Æ リテ膿ヲ無菌的ニ採集シ、 敷個ノ「アムプルレ」中ニ封入シ再ビ攝氏百度ノ重湯煎中ニテ三十分、 之ヲ再ビ强力遠心シ其ノ上澄ヲ陶土壁ニテ濾過シ全ク透明ナル 濾液ヲ得 定量ヲ加へ(第一、二、 ノヲ遠心器ニ裝ヒ强力ニ遠心シ、得タル上澄ヲ約五•○竓宛試驗管ニ分注 此 ノモ ノハ透明ニシテ溷濁又ハ沈渣物ヲ生ゼズ全ク原液ト肉眼 Ξ, 此ノ物ヲ直チニ遠心器ニ装ヒ(第六例)又ハ膿 四 五、七及ビ八例)ョク攪拌振盪シタル後若 若シ 六十 ク

結核菌 ガ爲ナリ。 初メ膿淸叉ハ食鹽水ニテ 傷害ヲモ蒙ラズ、 殆 人工培養基上ニ繁殖シタル ۲° 證明 從ラ喰菌作用上生濾液ト略 セ ラ ^稀釋シ ν ズ、 タル 3 シ 膿汁遠心上澄ヲ攝氏百度 ァ y 結核菌ョ ŀ シ テ モ甚ダ リ得タル ~同様ナル 小 生滤液、五分間位 數ナリ故ニ五分間ノ = トハ余ノ旣ニ立證 重湯煎中ニ五分間煮沸シタル 一ノ煮沸 煮沸っ セ iv テ其ノ 所ナリ。 3 ŋ テ 菌體 ハ「イムペヂ 且ッ流注膿瘍 ハ可凝性蛋白體ヲ除去セン ヨリ 菌物質ガ證明セラル 膿汁 殆ン) ド何等 中ニハ

可 き程度ニ浸出セラル ~° Ŧ コ ŀ ハ 考へ難シ、 故二五分間加熱ニョリテ得タル 原液ハ實地上略~生濾液ト見做スコト ヲ 得

嗿菌作用檢查用標準菌液

べ

黃色葡萄狀球菌二十四時間培養ノ寒天斜面菌苔ヲ○•八五%食鹽水中ニ 浮游セシメ 攝氏六十度ニテ三十分間加熱殺菌シ 炭酸ヲ加ヘタリ。 タル後生理的食鹽水ヲ以テ二囘洗滌シ、 該菌浮游液ノ菌量ハー•○竓中○•○○三五竓(第一、二、三、 再ビ任意量ノ○・八五%食鹽水ヲ加ヘテ菌浮游液ヲ作リ此二○・五%ノ割合ニ石 呵 Æ, 六例)叉ハ○・□○二一竓(第七

試驗動物

八例)ナリキ。

體重約三〇〇瓦ノ 新鮮ナル 雄海猽ヲ使用 セ

第三章 實驗方法

計上 時間 液 球絕對數ヲ檢シタリ。 ○竓)ヲ腹腔内ニ注射シ、三十分經過後前記標準菌液一•○竓ヲ頸靜脈ヨリ血行内ニ輸送シ、其ノ後十五分、三十分、 液單位容積內白血球絕對數ヲ算へ、注射前ノ血像ヲ檢シタル後、 第三例 各群三頭(時ニハ二頭)宛ヨリナル新鮮海猽ノ敷群ヲ用意シ、先ヅ後肢皮下靜脈ヨリ採血シテ塗抹標本ヲ製シ同時ニ C群ニハ三十分煮沸濾液、 一時間、 其ノ種類ノ百分率ノ現ニ菌體ヲ包喰セル喰細胞數「喰」、被喰菌數「菌」及ビ喰菌子「子」ヲ算出比較セリ。 第八例迄ハ實驗第二ト 四 .時間及ビ八時間ノ六囘ニニ亙リテ後肢皮下靜脈 塗抹標本ハ「メチール」酒精固定後ギームザ氏法ニテ染色檢鏡シ、任意ノ視野ヨリ白血球二百個 D群ニハ六十分煮沸濾液、 シテ抗元量 (原液及ビ各煮沸濾液)ヲ第一ノ倍量卽チ一•○竓(二•○竓)ヲ以 E群ニハ百二十分煮沸濾液ノ各々一定量(○•二—○•五— A群ニハ○·五%石炭酸加○·八五%食鹽水、 ヨリ 採血シ塗抹標本ヲ作リ同時ニ血液單位容積內白 B 群 テ同 líl. 原 m.

第四章 實驗成績

尚各例ニ於ケル注射材料使用量其他ハ各々ノ場合ニ精細ニ記入セリ。

檢索ヲ試ミタリ。

リ

原 瞀 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

第一表 原滤液○•五竓注射後ノ喰菌作用 (二頭分平均)

			血積絕	白增	白	旗 血	= ī	有 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	9600	1.00	76.5	23.5	0	0	0
	15	分	3950	0.41	77.25	22.75	2.0	3.0	5.0
菌液	30	分	4500	0.47	60.25	39.75	10.5	25.0	35.5
注射後經過時間	1 #	寺間	5750	0.60	43.5	56.5	9.0	25.5	34.5
極經過	2 #	寺間	6000	0.62	44.75	55.25	14.5	54.5	69.0
時間	4 🖡	寺間	4600	0.48	35.75	64.25	13.5	51.5	65.0
~	8 B	寺間	8000	0.83	18.5	81.5	9.5	41.0	50.5
總		和	32800	3.41	280.0	320.0	59.0	200.5	259.5

喰菌率=7.9

三十分煮沸滤液〇•五竓注射後ノ喰 第二表 菌作用(二頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= ī	了 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	7900	1.00	64.0	36.0	0	0	0
	15	分	8200	1.05	71.75	28.25	16.0	30.5	46.5
菌液	30	分	11900	1.51	46.75	53.25	18.5	67.0	85.5
注射经	1 8	寺間	6800	0.86	47.25	52.75	13.0	61.0	74.0
後經過時	2 ₽	专間	6900	0.87	24.25	75.75	18.5	57.0	75.5
時間	4 8	寺間	6100	0.77	37.75	62.25	13.0	40.5	53.5
	8 #	制	7750	0.98	39.75	60.25	6.5	12.0	18.5
總		和	47750	6.04	267.5	332.5	85.5	268.0	353.5

喰菌率=7.4

K I Ņ 第 例

診斷 結核性腰椎炎 女、二十三歲 右腸骨窩流注膿瘍 農

穿刺

昭

|和二年五月二日| 稀薄ニシテ乾酪樣物質ヲ

自覺セリ、 約十ヶ月前ニ右股關節ヲ屈曲 尚約六ヶ月前ョリ腰椎 スルニ 部ガ次第二 際シ下 腹 隆起畸形ヲ呈シタリ。 部二 鈍痛ヲ 訴 タ jν **=** 未ダ穿刺ヲ受ケタ ŀ r Ý, 其 後右腸骨窩二自發痛、 ıν ے ا ナシ。 痛ヲ 缺 腫 瘍ヲ

混ゼル黄褐色ノ膿約一○○○竓ヲ排出ス。

此

ラ

部ヲ無菌的

採り等

× :

第三表 百二十分煮沸滤液〇·五竓注射後/ 喰菌作用(二頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= 1	面	中
ł			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	2 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	11000	1.00	74.25	25.75	0	0	0
	15	分	8900	0.81	65.0	35.0	12.0	27.0	39.0
南液	30	分	6650	0.60	61.5	38.5	12.0	42.0	54.0
注射後經過時間	1 #	寺間	7050	0.64	54.5	45.5	9.5	30.0	39.5
經過	2 ₽	寺間	5500	0.50	32.75	67.25	16.0	48.0	64.0
時間	4 🛭	寺間	5250	0.48	51.5	48.5	14.0	38.0	52.0
	8 11	寺間	5550	0.50	39.5	50.5	11.0	22.5	33.5
總		和	38900	3.53	304.75	295.25	74.5	207.5	282.0

喰菌率=7.2

第四表 〇·五%石炭酸加〇·八五%食鹽水〇· 五竓注射後ノ喰菌作用(二頭**分**平均)

			血積絕	白增	白	血球	= ī	有 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	型 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	8100	1.00	69.5	30.5	0	0	0
	15	分	5750	0.71	71.25	28.75	9.0	17.0	26.0
菌液	30	分	4900	0.60	66.0	34.0	12.0	26.5	38.5
注射	18	寺間	515 0	0.63	51.25	48.75	10.5	21.5	32.0
校 經過	2 8	寺間	7800	0.96	29.25	70.75	14.0	39.5	53.5
射後經過時間	4 8	寺間	6056	0.75	21.5	78.5	9.5	25.5	35.0
'-'	80	寺間	7900	0.97	36.75	63.25	7.5	15.0	22.0
總		和	37550	4.62	276.0	324.0	62.0	145.0	207.0

喰菌率=5.5

標準菌液 量!○•八五%食鹽水ヲ加ヘヨク混和シ直チニ遠心シ 前記ノ方法ニ從ヒ原液三十分煮沸濾液及ピ 百二十分煮沸濾液ヲ製 此ノ〇・五竓宛ヲ各群二頭宛 菌量約○・○○三五瓩 ョリ成ル海猽群ニ注射セリ。

A 實驗結果

所見ハ第一表ョリ第四表迄及ビ第一圖ニ揭ゲラレタ:

ヒ第一圖ニ揭ゲラレタリ。

2. 原滤液

-●- - -三十分煮沸濾液

食鹽水

ニシテ煮沸濾液ハ何

レモ原液ヲ凌駕シ、

且ツ原液ハ對照タル食鹽

食鹽水ハ六二・○

水ヲ以テノ六二・○ヨリモ小ナリキ。

百二十分煮沸滤液

沸濾液ハ八五・五、

ッ。

各注射材料ノ示シタル「喰」ノ總和ハ原液ハ五九・○、三十分煮

次第ニ

減退スル

傾

向ヲ示シタ

百二十分煮沸濾液ハ七四・五、

二時

間目

現 三菌

體ヲ包喰セル喰細胞数 最大數ニ達シ其レヨリ

「喰」、各注射材料共崩液

輸

送後

В

所見概括

第一圖 各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係 (第一表乃至第四表參照)

I۷ テ各煮沸濾液ハ何レモ原液ヨリモ大ナリキ 煮沸滤液注射動物ハ二〇七・五、 テハ二〇〇•五、 ソ 秀ニシテ原液群ハ二五九•五ナルニ反シ、三十分煮沸濾液群。 又煮沸滤液注 被喰菌數菌ハ原液及ビ食鹽水注射動 從テ「喰」ト「菌」トノ和ナル喰菌子數「子」モ ヨリ漸次減少セリ。 射動物、三十分目乃至二時間 三十分煮沸濾液注射動物、二六八·〇、 而シテ「菌」ノ總和ハ原液注射動物 食鹽水注射動物ハ一四五・○ニシ 物 ハ 菌液注 目ニ最大數ヲ示 亦煮沸。 射後 濾。 百二十分 液∘ に三五 時 群。 ニアリ 間 **ガ**つ 優。 目

其ノ總和 四 三五、 血液單位容積內白血球對數ノ推移ヲ觀ルニ各注射材料共菌液注射後全觀察時ヲ通ジ白血球過少ヲ 百二十分煮沸滤液群ハ二八二・〇ョ示 シ、 對照タル食鹽水群ハ二○七・○ニシテ最小ナリキ。 百二十分煮沸濾群、三八九〇〇 惹起

子」

15 30

→經過時間

π

Ш

七五五〇ニ 白 血球増減比率ノ ハ原液群ハ三二八〇〇、 シラ三十分煮沸濾液ヲ以テノ動物群稍、大ナリシガ他ノ三者ハ略、 和ノ比較スル 三十分煮沸濾液群 - 原液ハ三·四一、三十分煮沸濾液ハ六·○四、 ハ四七七五〇、 百二十分煮沸滤液八三・五三、食鹽 致ノ白血球敷ヲ示 t y_o 食鹽水注 又全六囘 セ り。 射群 丽 水 シ 三 シ 亙 テ

第六表

注 射 前

|液注射後經過時間

總

15 分

30 分

1時間

2 時間

4時間

8時間

和

子

0

36.0

74.5

43.5

45.0

49.5

41.0

289.5

ত্য ভা . 7 2

> Ċ હ

以上ノ實驗成績ヲ一

括

シテ第五

表 = 揭 ゲタ y,

之レ

ニ就キ各注

射

材料ノ喰菌作用效果ノ大小ヲ檢スルニ「喰」ニ於テモ「菌」ニ於テモ

注射

7.9

百二十分煮沸濾液ニテハ七・二、食鹽水ニアリテハ五・五ナ

リ キ。 七。四、

原表

喰菌率ヲポメタ

jν

ニ原液ニ於テハ七•九、三十分煮沸濾液ニテ

四・六二ナリキ。

各注射材料ニョル喧菌作用總括

本	貴姓	材料 (建) 和 財 由 原 明 日 加 球 日 加 球	白角绿	录	氎	4
極液	0.5	0.5	3.41	59.0	200.5	200.5 259.5
が変換し	0.5	47750 6.04	6.04	85.5	268.0	353.5
分煮	0.5	0.5 38900 3.53	5.55 55	74.5	207.5	207.5 282.0
鹽水	0.5	0.5 37750 4.62	4.62	62.0	145.0	145.0 207.0
	-	Contract of the last				

海海河

5.61	205.5	394.5
喰	南率 =5.	.1

原滤液〇・二竓注射後ノ喰菌作用

Ė

淋巴球

%

58.75

55.75

42.25

34.0

22.0

25.25

26.25

血球

%

41.25

44.25

57.75

66.0

78.0

74.75

73.75 12.5

中 性 多 型 核

百 個 中

崮

0

23.5

57.0

31.0

28.5

35.0

28.5

203.5

=

喰

0

12.5

17.5

12.5

16.5

14.5

86.0

(二頭分平均)

白增

血減

球等

0.80

0.56

0.54

1.41

10100 1.00

8100

5700

5500

14200

56700

12200 1.21

11000 1.09

第七表 三十分煮沸滤液〇・二竓注射後ノ 喰菌作用(二頭分平均)

		血積絕	白增	白	血球	= .	百 個	中
		液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多 型	核
		容球	球率	36	%	喰	茵	子
注	射 前	8100	1.00	61.75	38.25	0	0	0
	15 分	7100	0.88	56.25	43.75	14.0	28.0	42.0
茵液	30 分	5500	0.68	59.25	40.75	14.0	43.0	57.0
注射後	1時間	6650	0.82	36.75	63.25	17.0	59.5	76.5
経經過時	2時間	6700	0.83	15.0	85.0	15.5	54.5	70.0
時間	4 時間	9500	1.17	31.25	68.75	13.5	44.5	58.0
""	8時間	7500	0.93	27.75	72.25	10.5	41.5	52.0
總	和	42950	5.31	226.25	:73.75	84.5	271.0	355.5

喰菌率=8.3

煮沸滤液群

ハ何レモ原液群ヲ凌駕セリ

但

シ喰菌率ノ關係

原液群 ハ反對

又從ラ喰菌作用全體ノ指標タル喰菌子數「子」ニ於ラモ ニ示サレタリ)。而シテ最大ノ喰菌作用ヲ示シタルモノハ三十分煮沸濾液群ニシテ百二十分煮沸濾液群ハ第二位、 ハ第三位ヲ占メ對照タル 食鹽水群ハ最小ナリキ。

M 診斷 T, 第二例 結核性胸椎炎 男、二十二歲、

肋骨周圍結核 指物業

百二十分煮沸滤液○•二竓注射後 第八表 ノ喰菌作用(二頭分平均)

			血積絕	白增	白	血 球	二 ī	新	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	6100	1.00	65.75	34.24	0	0	0
	15	分	8450	1.38	67.0	33.0	17.5	50.5	68.0
菌液注	30	分	7300	1.19	67.5	32.5	11.5	20.5	32.0
射	1 %	排間	6100	1.00	48.25	51.75	13.0	25.5	38.5
後經過時間	2 1	計間	8900	1.46	22.75	77.25	10.5	40.5	51.0
時間	4 🖪	持間	5650	0.93	36.0	64.0	11.0	28.5	39.5
	8 ₽	計間	7400	1.21	44.25	55.75	6.5	13.5	20.0
總	;	和	43800	7.17	285.75	314.25	70.0	179.0	249.0

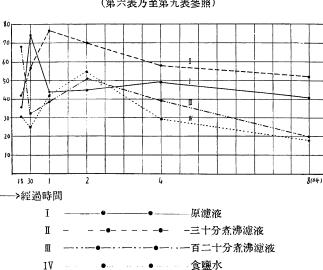
喰菌率=5.7

第九表 ○•五%石炭酸加○•八五%食鹽水 ○•二竓注射後ノ喰菌作用(二頭平均分)

			血積絕	白增	白	血球	= 7	1 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	7200	1.00	68.75	31.25	0	0	0
-11.	15	分	6900	0.96	69.5	30.5	10.0	20.5	30.5
菌液注	30	分	5850	0.81	71.25	28.75	8.5	16.5	25.0
社 射	1 #	寺間	6100	0.85	47.0	53.0	13.0	29.5	42.5
射後經過時間	2 🛭	寺間	7050	0.99	39.5	60.5	15.0	40.0	55.0
時間	4 8	寺間	8700	1.21	29.0	71.0	8.0	21.5	29.5
	81	寺間	8000	1.11	31.75	68.25	5.0	13.0	18.0
總		和	42600	5.93	288.0	312.0	59.5	141.0	200.5

呛菌率=4.70

各注射材料ト喰菌子數「子」トノ關係 第二圖 (第六表乃至第九表參照)



穿刺

(昭和二年七月二日) 灰褐色ヲ

呈

セ

jν =

濃厚ナル 膿其

膿

約五〇〇竓

ヲ 排

分物

ノ塗抹標本中ニ

該膿一〇〇

昭

和二年四月下旬右股關ヲ屈

曲 ス

jν

= jν

際シ疼痛ヲ感ジ次第ニ步行困

トナ

、 レ リ。

未ダ穿刺排膿ヲ受ケタ

トナシ。

出

此ノ膿中ニハ乾除樣物質ヲ混在ス。

標準菌液 菌量一•○竓中約○○•○三五竓 テ喰菌作用ヲ檢シタリ。

竓ニ等量ノ

菌體ヲ證明セズ又寒天培養基上ニ菌體ノ發育ヲ認メズ。

○•五%石酸加○•八五%食鹽水ヲ

加入

振盪混和後

値チェ

ノ方法ニ從ヒ原液並ニ 煮沸滤液ヲ作リ 各々○・二竓ヲ以

遠心シ前記

實驗結果

所見い 第六表ョ y 第九表迄及ビ第二 圖 揭 ゲラ タ

ッ。

В 所見概括

次第ニ減少シ八時間目 ニハ何レモ 煮沸濾液注射動物ハ十五分目ニ、 注射後三十分目、 現 最小トナリタリ。 = 菌 贈ヲ 包喰セル喰細胞數「喰」ハ原液注射動物ニ於ラハ菌液 三十分煮沸濾液注射動物 而シテ「喰」ノ總和ハ原液群ハ八六・〇、三十 又食鹽水注 射動 時間目ニ、 物 ハ二時間目ニ、 百二十分

リテハ二〇三•五、 分煮沸濾液ハ最大ニシテ原液ハ之レニ次ギ百二十分煮沸濾液ハ第三位、 被喰菌數 「菌」ハ大體ニ於テ「喰」ト同樣 三十分煮沸濾液ニアリテハ二七一・〇、 ノ經過ヲ示シタリ。 百二十分煮沸滤液,一七九•〇、 今各注射材料ノ示シタル 食鹽水ハ最小ナリキ。 「喰」ノ總和ヲ擧グ 食鹽水ハ一四一・○トナリ三 原液

分煮沸濾液群ハ八四・五、

百二十分煮沸濾液群、七〇・〇、

食鹽水群、五九・九ナリキ。

最大敷ニ達シ、

其

V ョリ

「子」←

原 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

六二五

Ξ 五五·六、 喰菌子敷「子」モ 百二十分煮沸滤液、二四九•〇、 亦「喰」及ビ「菌」ト同様ノ經過ヲ示シタリ。 食鹽水ハ二○○・五ニシテ三十分煮沸濾液ハ最大ナリキ。 而シテ其ノ総和ハ原液ハ二八九・五、三十分煮沸

血液單位容積內白血球總數、原液群、五六七〇〇、三十分煮沸濾液群、四二九五〇、 食鹽水群 ハ四三六○○ニシテ原液ノ場合ニハ最大、他ノ三者卽チ三十分煮沸濾液百二十分煮沸濾液及ビ食鹽水 百二十分煮沸濾液群 ハ四三八

		(第7	た表乃3	E第九表	參照)			
注射材料	(姓)	白血球 絕對數		喰	闳	子	淋	原表
原濾液	0.2	56700	5.61	86.0	203.5	289.5	5.1	6
30分煮 沸滤液	0.2	42950	5.31	^4. 5	271.0	355.5	8.3	7
120分煮 沸濾液	0.2	43800	7.17	70.0	179.0	249.0	5.7	8
食鹽水	0.2	42600	5.93	59.5	141.0	200.5	4.7	9
fi H	第三列	與 / タルモノト云 煮沸濾液、原液、 6	二十分煮	鹽水注射群ナリキ。 本例ニ於テモ最大:	本例ノ實	煮沸濾液注射群へE 。。。。。。。。 、五•七、食鹽水へ	五、喰菌率ヲポメ	合ハ略~一

各注射材料ニョル喰菌作用總括

場合 ハ略~一致セリ。

煮沸濾液 Ъ 五七、 喰菌率ヲポメタルニ 原液ノ場合ハ五・一、三十分煮沸濾液ハ八・三、百二十分煮沸濾液 凌駕セリ。

鹽水注射群 本例 锏 本例 於テモ最大ノ喰菌作用ヲ促進シ , 實驗結果ヲ總括シテ第十表 ナリキ。 丽 シテ喰菌子ノ 大ナル 4.二掲ゲ タル Æ タ モノヲ ッ。 ノハ三十分煮沸濾液

瓶, ヘヘタル 沸 モハト云ファ得 原液、 **倉鹽水ト** べいシ。 ・ナリ、 何、 V ョ、 り観ルモ三十分煮沸濾液、最大ノ喰燼作用效果ヲヘ、又喰菌率ノ大小順ハ三十分煮沸濾液、百二十分

食鹽

水

ジ順

序

ŀ

・ナリ、

順次ニ

舉グレバ三十分煮沸濾液

ニシ

テ其

ノ 、最小ナ

jν ハ 食

Ш 第三例

第十表

I Ķ 男、 十九 蒇 農

診 斷 結核性胸椎炎 右腸骨窩流注

年前 3 y 運 動 = 際シ 腰痛ヲ訴 、ヘタリ。 六ヶ月前 3 y 右腸骨窩:無痛性 ノ腫瘍ニ氣付ク、 未ダ穿刺排膿ヲ受ケタ

約

トナ

穿 刺 (昭和二年十月十八日) ニ 3 コリテ得 タ jν 膿 稀薄 シテ黄褐色ヲ 呈 シ乾酪樣物質ヲ混 在 ス 膿 中 菌 日體ヲ 證 明 セ ズ、 寒

天培養基上ニ移スモ菌ノ發育ナシ、該膿一八○竓ニ同量ノ○・五%石炭酸加○・八五%食鹽水ヲ混ジー晝夜氷室内ニ放置 シ次デ之レヨリ原液、 三十分煮沸濾液、六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液ヲ製シタリ。

標準菌液 菌量 □ ○竓中約○•○○三五砫含有

六十分煮沸液及ビ百二十分煮沸濾液〇・五竓注射後ノ喰菌作用

實驗結果

實驗第一

原液、

三十分煮沸濾液、

A

所見ハ第十一表ヨリ第十四表迄及ビ第三圖ニ示サレ タリ。

	4.04.04		血積絕	白增	ľ	血 球	= ī	1 個	中
			液內對	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			位血 容球	球率	36	36	喰	菌	子
it.	射	前	10000	1.00	70.5	29.3	0	0	0
	15	分	8500	0.85	63.3	36.7	10.3	29.6	39.9
菌液	30	分	11200	1.12	54.1	45.8	11.6	49.6	61.2
注射統	1 A	寺間	8200	0.82	34.7	65.3	19.6	119.0	138.6
射後經過	2 8	诗間	18000	1.80	19.3	80.7	28.0	132.6	160.6
時間	4 1	寺間	5300	0.53	36.0	64.0	21.0	100.0	121.0
,,	8.0	時間	5600	0.56	49.0	51.0	12.6	43.3	55.9
살다.		和	56800	5.68	257.0	343.0	103.1	474.1	577.2

第十一表 原滤液〇・五竓ヲ以テノ喰菌作用

(三頭分平均)

喰菌率=10.2

三十分煮沸濾液〇・五竓ヲ以テ 第十二表 ノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	<u> </u>	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
į			容球	球率	%	%	喰	菌	子
连	射	旓	8600	1.00	65.7	34.3	0	0	0
	15	分	6800	0.79	68.3	31.7	22.0	77.0	99.0
南液	30	分	4200	0.49	53.7	46.3	21.6	108.6	130.2
注射	1 11	5間	4250	0.49	36.7	63.3	18.0	121.6	139.6
後經過	2 1	時間	9200	1 07	22.7	77.0	28.6	131.6	160.2
時間	4 0	時間	6500	0.75	32.3	97.7	24.0	129.0	153.0
	8 8	時間	4800	0.56	51.7	48.3	14.3	57.6	71.9
總		和	35750	4.15	265.4	334.6	128.5	625.4	753.9

喰菌率=21.1

第十三表 六十分煮沸濾液〇•五竓ヲ以テ ノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= 1	育 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	9300	1.00	53.0	47.0	0	0	0
-JH2	15	分	7100	0.76	66.7	33. 3	17.3	42.6	59.9
菌液 注	30	分	6600	0.71	51.5	48.5	29.3	98.0	127.3
出射後	18	寺間	4700	0.51	41.3	58.7	23.6	93.0	116.6
射後經過	2 🛭	寺間	17000	1.83	19.2	80.8	20.6	145.6	166.2
時間	4 8	寺間	9000	0.97	25.0	75.0	17.6	79.3	96.9
	8 🛭	寺間	9000	0.97	37.0	63.0	10.0	19.3	29.3
總		和	53400	5.75	940.7	259.3	118.4	477.8	596.2

喰菌率=11.0

第十四表 百二十分煮沸濾液○•五竓ヲ以 テノ喰菌作用(三頭分平均)

		血積絕	白增	白	血球	= 7	有 個	中
		液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	8000	1.00	57.9	42.1	0	0	0
	15 分	6550	0.82	65.7	34.3	16.3	32.3	48.6
南液	30 分	6100	0.76	55.9	44.1	19.3	63.0	82.3
注射後	1時間	4600	0.58	44.0	56.0	15.3	93.6	108.9
經過	2時間	6900	0.86	26.0	74.0	17.6	106.0	123.6
時間	4 時間	5000	0.63	32.3	67.7	22.0	83.0	105.0
	8 時間	5000	0.63	37.9	62.1	13.0	42.0	55.0
總	和	34150	4.28	261.8	338.2	103.5	419.9	523.4

喰菌率=15.3

濾液群、一二八·五、六十分煮沸濾液群、一一八·四、 總和ハ原液群ニアリテハ 四七四•一、三十分煮沸液群ハ六二五•四、六十分煮沸濾液群ハ 四七七•八、百二十分煮沸濾液群 ハ三十分目乃至四時 被喰菌數「菌」ハ各動物群共菌液注射後二時間目ニ最大數ヲ示シソレ 現っ 菌 體ヲ包喰セル喰細胞數「喰」ハ原液注射動物ニアリテハ菌液輸送後二時間目 間目ニ最大數ヲ示シ其レ ョリ漸次ニ減退セリ。 百二十分煮沸濾液群ハ一〇三・五ニシラ原液群ハ最少ナリキ。 而シ 3 ァ「喰」ノ總和ハ原液群ハ |○三・一、三十分煮沸 リ四時間目八時間目ト漸次減少セリ。 £ = , 又煮沸濾液注射動物 ニアリテ 「菌」ノ

В

所見概括

原 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

凌駕セ 四 九・五ニシテ三十分煮沸濾液注射動物 ハ遙カニ 原液ヲ

8(計)

動物ハ五二三•四ニシテ 三十分及ビ 六十分煮沸濾液ハ何レ 六十分煮沸濾液注射動物、五九六·二、百二十分煮沸濾液注射 注射動物、五七七・二、三十分煮沸濾液注射動物 喰菌子數「子」ハ「菌」ト同様ノ經過ヲ示シ 其 (ノ總數 、七五三・九、

濾液ハ四・一五、六十分煮沸濾液ハ五・七五、百二十分煮沸濾 白血球過少ヲ惹起セリ、 沸濾液群ニテハ五三四〇〇、百二十分煮沸濾液群ニテハ三四 五六八〇〇、三十分煮沸濾液群ニテハ三五七五〇、六十分煮 原液ヲ凌駕セリ。 一五〇ナリキ。 血液單位容積內白血球絕對數八各注射材料共菌液輸送後 又白血球增減比率、原液五・六八、三十分煮沸 而シテ白血球ノ總和 ハ原液群ニテハ

第三圖

180

160

140

120

子

15 30

→經過時間 Ι

各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係

- - - -三十分煮沸濾液

(以下第十圖迄之ニ準ズ)

(第十一表乃至第十四表參照)

六十分煮沸濾液ハー一・○、百二十分煮沸滤液ハ一五・三ニシテ煮沸濾液ハ何レ 五 喰菌率ヲポメタルニ原液ニ於テハ一○•二、三十分煮沸濾 Æ 原液ョリモ大ナリキ。

液ハ四・二八トナレリ。

六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液一・〇竓注射後ノ喰菌作用

所見ハ第十五表乃至第十八表及ビ第四圖ニ就キテ見ル可

實驗第二

原液、

三十分煮沸濾液、

實驗結果

В 所見概括

射動物ハー七•五、百二十分煮沸濾液注射動物ハ一○五•○トナリ各煮沸濾液ハ何レモ原液ニ比シ顯著ニ大ナル「喰」ヲ得 次減退セリ。 喰細胞數「喰」ハ原液群ハ菌液注射後二時間目ニ叉煮沸濾液群ハ一時間目又ハ二時間目ニ最大數ヲ示シ、 而シテ 「喰」ノ 總和ハ原液注射動物ハ九三・一、三十分煮沸濾液注射動物ハ一二七・八、六十分煮沸濾液注 夫 v 3 y

作用(三頭分平均) 原源液一・〇竓ヲ以テノ喰菌 第 拞. 表

タリ。

テノ喰菌作用 (三頭平均)

三十分煮沸濾液一・○竓ョ以 第 十 表

喰菌作用(三頭平均)

			血積絕	白增	į į	自血或	第二章	「個中	1
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性多	型	核
			容球	球率	%	%	喰	菡	子
注	射	前	8900	1.00	56.3	43.7	0	0	0
	15	分	7600	0.85	68.8	31.1	17.0	48.0	65.0
菌過 液時	30	分	6400	0.72	49.5	50.5	23.3	103.3	$\overline{126.6}$
注間	1 #	調	6300	0.71	23.3	76.7	26.6	137.6	164.2
射後	2 ₽	制	9100	1.02	15.5	84.5	28.3	156.0	184.3
注射後經	4 8	胡	6200	0.70	25.1	74.8	19.6	116.0	135.6
	8 8	計	6500	0.73	35.5	64:.5	13.0	36.6	49.6

白血球二百個中

性 多

喰

0

10.3

13.6

18.6

21.3

20.3

9.0

93.1

型 核

菌

0

33.0

53.0

116.3

107.6

62.6

32.6

406.1

子

0

43.3

66.6

134.9

128.9

82.9

42.6

499.2

中

26

45.3

34.3

38.3

57.0

85.5

81.3

70.0

366.4

血積絕 液內對 單白數

位血 容球

射 前

15 分

分

1時間

2 時間

4時間

8時間

和

菌液注射後經

總

總

和

白增

血減

球率

0.87

0.67

11200 1.00

6200 0.55

18800 1.68

8700 0.78

10000 0.89

61000 5.44

9800

7500

淋巴球

%

54.7

65.6

61.7

43.0

14.5

18.7

30.0

233.5

喰菌率=8.2

喰菌率 =17.2

42100 4.73 217.7 382.1 127.8 597.5 726.3

			血積絕	白增	I	自血毛	求 二 百	「個 中	
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性多	型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	7800	1.00	61.5	38.5	0	()	0
-140.312	15		8000	1.03	74.3	25.7	13.3	33.6	46.9
菌過 液時	30	分	6200	0.79	71.7	28.3	14.3	72.6	86.9
注間	1 🖪	寺間	5200	0.67	41.5	58.5	30.6	153.0	183.6
 	2 ₽	寺間	7600	0.97	26.0	74.0	26.0	129.3	155.3
經	4 #	寺間	7800	0.99	33.8	66.2	17.3	88.3	105.6
	8#	寺間	8800	1.13	45.1	54.9	16.0	56.6	72.6
總		和	43600	5.58	292.4	307.6	117.5	533.4	650.9

喰菌率=14.9

六十分煮沸液濾一・○年ョ以テ +

漸

六十分煮沸濾液群ハ六五〇•九ニテ第二位、百二十分煮沸濾液注射群ハ五八四•五ニシテ第三位ト

、四九九・二ニ過ギザリシガ三十分煮沸濾液群、

七

二五・三ニシテ第一位、

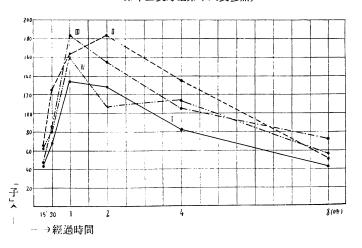
従テ喰菌子數「子」モ煮沸濾液注射群ガ絕對的ニ大ニシテ原液群

第十八表 百二十分煮沸滤液一•○竓ヲ以テノ 喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕液內對	白增	白	血球	= 1	百 `個	中
			電白数 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	13200	1.00	36.8	63.2	0	0	0
-144	15	分	8900	0.67	50.1	49.8	21.6	42.0	63.6
菌液	30	分	7900	0.60	49.3	50.7	13.6	69.0	82.6
注射後	1時	間	7600	0.58	34.3	65.7	20.0	140.3	160.3
後經過時間	2 時	間	23600	1.79	8.3	91.7	17.6	89.6	107.2
時間	4時	間	14500	1.09	19.0	81.0	19.6	94.6	114.2
	8時	間	12300	0.93	28.0	72.0	12.6	44.0	56.6
總	禾	п	74800	5.66	189.0	410.9	105.0	479.5	584.5

喰菌率=7.8

第四圖 各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係 (第十五表乃至第十八表参照)



液ヲ遙カニ凌駕セリ。 十分煮沸濾液群、五九七·五、 被喰菌數「菌」ハ各動物群共ニ菌液注射後 六十分煮沸濾液群ハ五三三•四、百二十分煮沸濾液群ハ四七九•六ニシテ是亦煮沸濾液ハ原 時間日ニ 最數大ニ増加 セ り。 而シテ「菌」ノ總和 ハ原液群ハ四〇六・一、三

ナリタリ。

原

第十九表 各注射材料ニョル喰菌作用總括 (第十一表乃至第十八表參照)

實驗	注材	射料	白血球 絕對數	白血球 比率	喰	菌	子	率	原表
第	原初	微液	56800	5.68	103.1	474.1	577.2	10.2	11
-	30分沸波	計 激液	35750	4.15	128.5	625.2	753.7	21.1	12
(○•五竓)	60分沸沥	· 清 證 液	53400	5.75	118.4	477.8	596.2	11.0	13
此	120 沸湯	分煮 液液	34150	4.28	103.5	419.9	523.4	15.3	14
第	原》	紅液	61000	5.44	93.1	406.1	499.2	8.2	15
第二(一	30分沸液	· 清流 煮液	42100	4.73	127.8	597.5	725.3	17.2	16
·〇竓)		}煮 煮液	43600	5.58	117.5	533.4	650.9	14.9	17
些	120 沸湯	分煮	74800	5.66	105.0	479.5	584.5	7.8	18

六六ニシテ各略 原液、六一〇〇〇、 其ノ增減比率ノ總和ハ原液五•四四、三十分煮沸濾液ハ四•七三、六十分煮沸濾液ハ五•五八、百二十分煮沸濾液ハ五• 血液單位容積內白血球絕對數ハ一・○竓注射ノ場合ニ於テモ菌液輸送後一般ニ白血球過少ヲ惹起 ζ 接近シタル数ヲ示セリ。 三十分煮沸濾液、四二一○○、六十分煮沸濾液、四三六○○、 百二十分煮沸濾液ハ七四八〇〇トナ Ŀ り。 白 血球總和

Ą

濾液 三十分煮沸濾液注射動物ニ於テ最大ナリキ。 ハ一四・九、百二十分煮沸濾液ハ七・八ニシテ喰菌子敷モ喰菌率モ共

喰菌茲ニ於テハ原液ハ八・二、三十分煮沸濾液ハー七・二、六十分煮沸

所見概括

少 濾液注射群ハ喰菌子敷ガ増大シタレドモ原液及ビ三十分煮沸液群ハ逆ニ減 實驗第一、第二ノ結果ヲ總括シテ第十九表ヲ得タリ。 十分煮沸濾液群ニシテ六十分煮沸濾液群ハ之ニ次ギ原液及ビ百二十分煮沸 /セリ。 顯著二大ナリキ 注射量ヲ○・五竓ョリー・○竓ニ增加シタルニ六十分及ビ百二十分煮沸 此 場合三十分煮沸濾液群ノ減少率ハ小ナリシガ原液群ノ減少率 而シテ兩實驗ヲ通ジ最大ノ喰菌子ヲ示シタ

モ

ヲ示シタリ。 テ原液群ハ常ニ三十分煮沸濾液又ハ六十分煮沸液群ョ 血液單位容積內白血球絕對數八注射量增加 ルニ連行 リモ シテ増大セ 大ナル白血球敷 ッ。 丽

濾液群ハ常ニ小ニシテ第三位、

第四位ヲ上下セリ。

喰菌率ハ兩實驗ヲ通ジテ三十分煮沸濾液群ガ最大ヲ示シ六十分及百二

低

注 射

菌 30 分

液

注

射後經過時間

總

15 分

1時間

2 時間

4時間

8時間

第二十表

前

Н W

・セリ。

結核性腰椎炎 女

二年前ョ リ腰痛アリ特ニ 右腸腰筋流注膿 運動スル 際若シ ク ハ 毎

朝離牀時ニ

一疼痛著

·シ、 約

ケ 年前 3 リ

右腸腰

筋流注膿瘍ヲ生

ジ、

今 迄

核 子 0 53.6 58.9 93.9 162.9 65.028.3 462.6

279.6喰菌率=9.9

原濾液○•五竓ヲ以テノ喰菌作

中 性 多 型

喰

0

11.0

13.3

12.6

23.6

15.0

9.0

84.5

%

31.3

28.7

38.5

50.0

75.7

67.0

60.5

320.4

菌

0

42.6

45.6

81.3

139.3

50.0

19.3

378.1

用(三頭分平均)

白 īm. 球 = 百 個 中

淋巴球

%

68.7

71.3

61.5

50.0

24.3

33.0

39.5

白增

血減

球率

1.00

0.84

0.89

0.77

1.06

0.54

0.77

4.87

血積絕 液內對單角數

位血 容球

9600

8050

8550

7400

10200

5200

7400

46800

三十分煮沸滤液○•五竓ョ以 第二十一表 テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血 球	_ ī	写 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	6300	1.00	57.3	42.7	0	0	0
	15	分	6500	1.03	64.0	36.0	25.6	79.6	105.2
菌液注射	30	分	6350	1.00	60.0	40.0	18.6	83.6	102.2
	1 8	寺間	6800	1.(8	26.3	73.7	24.3	119.6	143.9
後經過時間	2 #	寺間	9750	1.55	19.0	81.0	32.6	146.0	178.6
時間	4 B	寺間	7150	1.13	24.0	76.0	23.3	87.0	110.3
	8 #	寺間	6500	1.03	31.7	68.3	14.0	46.0	60.0
總		和	43050	6.82	225.0	375.0	138.4	561.8	700.2

喰菌率=16.3

第二十二表 六十分煮沸滤液○•五竓ョ以 テノ喰菌作用(三頭分平均)

				7				
i		血積絕液內對	白增	白	血球	= 1	百 個	中
		單白數	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	5500	1.00	66.0	34.0	0	0	0
725-	15 分	8000	1.45	60.0	40.0	25.6	85.6	111.2
菌液注	30 分	7800	1.42	61.5	38.5	30.3	107.6	137.9
射後	1時間	8900	1.62	44.0	56.0	24.6	152.5	177.1
射後經過	2時間	10300	1.87	24.0	76.0	29.0	172.6	201.6
時間	4 時間	7750	1.41	33.0	67.0	31.6	147.6	179.2
	8 時間	6650	1.21	36.0	64.0	19.6	73.3	92.9
總	和	49400	8.98	258.5	341.5	160.7	739.2	899.9

喰菌率=18.2

百二十分煮沸濾液○•五竓ョ 第二十三表 以テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	施 越	ī	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	5700	1.00	56.3	43.7	0	0	0
	15	分	6750	1.18	78.5	21.5	9.6	43.0	52.6
菌液	30	分	5750	1.00	58.7	41.3	27.6	132.3	159.9
注射经	18	寺間	5650	0.99	46.7	53.3	19.6	139.6	159.2
射後經過時間	2 ₽	寺間	7300	1.28	20.3	79.7	27.6	113.3	140.9
時間	4 ₽	寺間	6700	1.17	25.0	75.0	30.0	146.0	176.0
	8 🖪		8500	1.49	37.3	62.7	21.3	85.0	106.3
總	;	和	40650	7.11	266.5	333.5	135.7	659.2	794.9

喰菌率=19.6

穿刺(昭和二年十月十九日)シテ得タル 沸濾液ヲ製シタリ。 ノ○・五%石炭酸加○・八五%食鹽水ヲ 尙濾液ハ全ク水樣透明ニシテ淡黃色ヲ呈セリ。 加 膿 ハ濃厚ニシテ帯黄灰白色ヲ呈ス。 ョク振盪混和シ直チニ强烈ニ遠心シテ原液及ビ三十分、六十分

膿中ニ

菌

一體ヲ證明セズ。

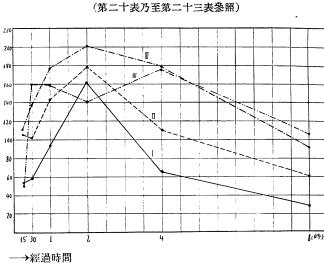
該膿一三○竓ニ等量

百二十分煮

二囘穿刺排膿サレタリ。

標準菌液 •〇竓中約〇•〇〇三五竓 ノ菌體ヲ含有ス。

實驗第一 原液、三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液〇・五竓注射ノ喰菌作用



ッ。

時間目ニ全經過中ノ頂點ニ達シ、

所見ハ第二十表乃至第二十三表又ハ第五圖ニ就キテ見ル可シ。

A

實驗結果

В

所見概括

駕セリ。

煮沸濾液注射動物ハ 一三五•七ニシテ各煮沸濾液群ハ 嶄然原液群ヲ凌

射動物ハー三八・四、六十分煮沸濾液注射動物ハー六〇・七、百二十分

「喰」ノ總和ハ原液注射動物ニアリテハ八四•五、三十分煮沸濾液注

現ニ菌體ヲ包喰シ居ル喰細胞數「喰」ハ各注射材料共菌液輸送後二

其レョリ次第二減退スル傾向ヲ示セ

各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係

ナリ是亦各煮沸濾液ハ絕對ニ原液ノ追從ヲ許サザリキ。 一・八、六十分煮沸濾液ハ七三九・二、百二十分煮沸濾液ハ六五九・二ト 從テ喰菌子數「子」モ亦煮沸濾液ハ原液ヨリモ絕對的多數ニシテ原 被喰菌数「菌」モ「喰」ト同樣菌液注射後二時間目ニ最大數ニ達セ 「菌」ノ總和へ原液ニ於テハ三七八•一、三十分煮沸濾液ニテハ五六

第五周

百二十分煮沸濾液群ハ七九四・九ヲ示シ六十分煮沸濾液群ノ如キハ原液群ノ二倍以上ノ「子」ヲ舉 子」 液群ガ四六二•六ナルニ反シ三十分煮沸濾液群ハ七〇•〇二、六十分煮

多ヲ呈シタリ。 四 血液單位容積內白血球絕對數ハ原液群ニアリテハ菌液性注射後白血球過少ヲ惹起シ、 百二十分煮沸滤液群 而シテ其 ハ四○六五○ナリキ。 ノ總和ハ原液群ハ四六八○○、三十分煮沸濾液群ハ四三○五○、 又白血球增減比率ノ總和ハ原液四•八七、三十分煮沸濾液六•八二、六十 六十分煮沸滤液群、四九四〇 煮沸濾液群ハ一般 白 1血球過

原

著

林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

ゲタ

沸濾液群ハ八九九・九、

六三五

致 セ

叉

第二十四表 原液一•○竓ヲ以テノ喰菌作 用(三頭分平均)

		血積絕	白增	白	血球	= 1	百 個	中
	-	液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	26	%	喰	菌	子
注	射 前	8200	1.00	81.3	18.7	0	0	0
	15 分	8300	1.01	72.7	27.3	14.3	41.0	55.3
菌液	30 分	6400	0.78	63.5	36.5	17.6	86.6	104.2
注射統	1時間	4500	0.55	50.3	49.7	24.6	188.3	212.9
後 經 溫	2 時間	10100	1.23	25.0	75.0	38.6	191.0	229.6
後經過時間	4 時間	7000	0.85	25.5	74.5	29.3	98.0	127.3
	8時間	6407	0.78	39.3	60.7	27.0	99.0	126.0
總	和	42700	5.20	276.3	323.7	151.4	703.9	855.3

喰菌率=20.2

第二十五表 三十分煮沸滤液一•○竓ョ以 テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	l'I	血球	=:	百 個	中
			液內對 單白數	血減	淋巴球	th:	性	多 型	核
			位血 容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	萷	7900	1.00	50.7	49.3	0	0	0
	15	分	£300	0.80	69.0	31.0	16.6	44.3	60.9
菌液	30	分	7000	0.89	60.5	39.5	24.3	163.6	187.9
注射	1.0	专間	4850	0.61	38.0	62.0	34.3	299.6	333.9
後經過時間	2 1	寺間	6800	0.86	33.3	66.7	33.6	192.6	226.2
時間	4 1	寺間	7250	0.92	32.0	68.0	33.6	167.6	201.2
	8 #	制	8000	1.01	20.7	79.3	25.6	110.0	135.6
總		和	40200	5.09	253.5	346.5	168.0	977.7	1145.7

喰菌率=28.5

五 同時ニ檢シタル中性多型核細胞及ビ淋巴球ノ%敷ヲ觀ルモ各動物群ハ大同小異 分煮沸滤液八·九八、 テ此ノ場合ニモ煮沸濾液ガ優勢ニシテ六十分乃至百二十分煮沸濾液ハ原液ニ比シニ倍大ノ率ヲ獲タリ。 喰菌率ハ原液群ハ九•九三十分煮沸濾液群ハ一六•三、六十分煮沸濾液群ハ一八•二、百二十分煮沸濾液群ハ一九•六 百二十分煮沸濾液七・一一トナレリ。 即チ絕對數ニ於テハ原液及ビ各煮沸滤液共略~ ノ數ヲ擧ゲタリ。

實驗第一

原液、

三十分煮沸濾液、

六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液一・〇〇竓注射後ノ喰菌作用

實驗結果

 ν 3 IJ

四

第二十六表 六十分煮沸濾液一•○竓ョ以 テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕液內對	白增	白	血球	= 7	1 個	中
			型白數 位血	血減	淋巴球	中	性	型 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	5500	1.00	49.5	50.5	0	0	0
	15	分	8000	1.45	69.3	30.7	13.0	31.0	44.0
菌液注射後經過時	30	分	7800	1.42	46.0	54.0	35.6	196.6	232.2
射	1 8	寺間	8900	1.62	38.3	61.7	25.3	139.3	164.6
經過	2	時間	10:00	1.87	18.6	81.3	27.3	186.6	216.6
時間	4 0	诗間	7750	1.41	20.0	80.0	28.3	106.6	134.9
	81	時間	6650	1.21	34.0	66.0	14.0	57.3	71.3
總		和	49400	8.98	226.2	373.7	143.5	720.1	863.6

喰菌率=17.5

第二十七表 百二十分煮沸滤液一•○竓ョ 以テノ喰菌作用(三頭分平均)

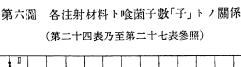
			血積絕	白增	白	血球	= 7	写 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	5700	1.00	58.0	42.0	0	0	0
	15	分	6750	1.18	63.3	36.7	11.6	29.3	40.9
菌液注	30	分	5750	1.00	59.5	40.5	21.0	97.6	118.6
社射後	1 #	寺間	5650	0.99	59.5	40.5	18.6	104.3	122.9
經過	2 1	寺間	7300	1.28	27.3	72.7	18.6	71.3	89.9
時間	4 11	寺間	6700	1.17	$\begin{vmatrix} \vec{23}.3 \end{vmatrix}$	76.7	13.0	59.3	72.3
	8 [8500	1.49	31.3	68.7	10.3	43.6	53.9
総	;	和	40650	7.11	264.2	335.8	93.1	405.4	498.5

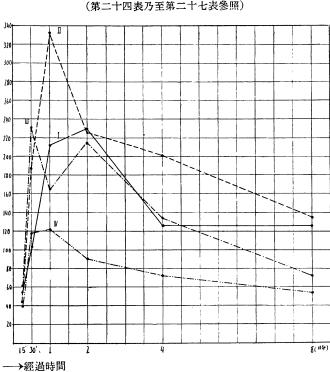
喰菌率=12.3

五、 最大トナリタリ。 被喰菌數 「菌」 菌體ヲ包喰シ居ル喰細胞數「喰」ハ原液注射動物ハ菌液注入後二時間目ニ、 百二十分煮沸滤液群へ九三・一トナリタリ。 В 而シテ「喰」ノ總和 ハ原液群ハ菌液輸送後二時間目ニ煮沸濾液群ハ三十分目乃至 所見概括 ハ原液群ハ 一五 鸣

所見ハ第二十四表乃至第二十七表又ハ第六圖ニ揭ゲタリ。

三十分煮沸濾液群、一六八・○、 煮沸濾液注射動物ハ三十分乃至二時間 一時間目 ニ最高ト 六十分煮沸濾液群ハ ーナリ其 次第ニ





三九、 減退セリ。 沸濾液ハ壓倒的最大数ヲ示セリ。 六、百二十分煮沸濾液群ハ四九八・五ニシテ三十分煮 凌駕セリ。 ○五•四ト ナリ三十分乃至六十分煮沸濾液ハ 原液ヲ 分煮沸濾液群、七二〇·一、百二十分煮沸濾液群、四 濾液群ハーー四五•七、六十分煮沸濾液群ハ八六三• ヲ示シ、 ■、喰菌子敷「子」モ「喰」及ビ「菌」ト略~同様ノ經過 三十分煮沸濾液群ニ於テハ九七七・七、六十 其ノ總和ハ原液群ハ八五五・三、三十分煮沸 而シテ「菌」ノ總和ハ原液群ニ於テハ七〇

四 叉白血球增減比率ヲ觀ルニ原液ハ五•二〇、三十分煮 シテ原液及ビ各煮沸濾液ハ大同小異ノ數ヲ舉ゲタリ 三十分煮沸濾液群、四○二○○、六十分煮沸濾液群 ハ四九四○○、百二十分煮沸濾液群ハ四○六五○□ 血液單位容積白血球總數ハ原液群ハ四二七〇〇

液ハ稍 沸群液ハ五•○九、六十分煮沸濾液ハ八•九八、 - 大ナリシガ原液及ビ三十分煮沸濾液ハ伯仲セリ。又六囘ニ亙リテ檢シ得タル淋巴球及ビ喰細胞%數ニ於テモ各 百二十分煮沸濾液ハ七・一一トナリ六十分煮沸滤液及ビ百二十分煮沸濾

子」

濾液群ハ | 二•二トナリ三十分煮沸濾液ニ於ラ最大ナリキ。 菌率 ハ原液注射群ニアリテハ二○・○、 三十分煮沸濾液群、二八・五、 六十分煮沸濾液群、一七・五、百二十分煮沸

注射群共略々一致

ノ數ヲ示セリ。

所見概括

注射量ヲ○・五竓ヨリー・○竓ニ増加シタルニ原液及ビ三十分煮沸濾液

第二十八表 各注射材料ニョル喰菌作用總括

(第二十表乃至第二十七表參照)

		(M2	- 1 ac/.	/エルー	日本学が			
實驗	注 射 材料	白血球 絕對數	白血球 比率	喰	菌	子	率	原表
第	原濾液	46800	4.87	84.5	378.1	462.6	9.9	20
(0.	30分煮 沸滤液	40350	6.82	138.4	561.8	700.2	16.3	21
)•五竓)	60分煮 沸濾液	49400	8.98	160.7	739.2	899.9	18.2	22
逃	120分煮 沸濾液	40650	7.11	135.7	659.2	794.9	19.6	23
第	原濾液	42700	5.20	151.4	703.9	855.3	20.0	24
第二(1	30分煮 沸滤液	40200	5.09	168.0	977.7	1145.7	₹8.5	25
·〇竓	60分煮 沸滤液	49400	8.98	143.5	720.1	863.6	17.5	26
些	120分煮 沸濾液	40650	7.11	93.1	405.4	498.5	12.3	27

第四位トナレリ。又一・○竓注射ノ場合ニハ三十分煮沸濾液群ハ嶄然他 射ノ場合ノ喰菌子数ハ六十分煮沸濾液群ガ最大ニシテ第一位ヲ占メ、百二 分及ビ百二十分煮沸濾液群ノ却ツテ喰菌子敷ガ減退セリ。而シテ○•五竓注 群ハ喰菌作用全體ノ指標タル喰菌子数ガ之ト連行シテ増大シタレドモ六十 以上ノ第一、第二實驗結果ヲ一括シテ第二十八表ニ收メタリ。 第三位トナリ、百二十分煮沸濾液群ハ急激ニ減退シテ第四位下位トナレ 凌駕シ、六十分煮沸濾液群ハ之ニ次ギ、原液群ハ六十分群ヨリ稍~小ニシテ 十分煮沸濾液群ハ第二位、三十分煮沸濾液群ハ第三位、原液群ハ 最小ニシテ

|群ヲ

y_°

及ビ百二十分煮沸濾液群ハ却ツテ減少セリ。 白血球絕對數ハ注射量ヲ變化スルモ殆ド變化ナク又原液及ビ各煮沸濾

液群ノ間ニモ大差ナク、全實驗ヲ通ジテ略~一致ノ數ヲ示セリ。 原液及ビ三十分煮沸滤液群ハ注射量ヲ増セバ 喰菌率ハ注射量ノ増大ニ連レテ喰菌子ト同様ノ變化ヲ示シタリ。 而シテ煮沸濾液群 率モ亦

増大シタレドモ六十分

卽

(特二三十分

十ヶ月 前 3 リ步行 ニ際シ左大腿ニ疼痛ヲ訴ハ跋步ス、

診斷 結核性胸椎炎 左腸腰筋流注

K Ů

女

十一歲

第五例

原液ヲ遙カ

凌

駕

セ り。

原 林 :=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

未ダ穿刺ヲ受ケタルコトナシ。

第二十九表 原遮液○•五竓注射後ノ喰菌 作用(三頭分平均)

		血積絕	白增	白	血球	= ī	写 個	中
		液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	12500	1.00	42.3	57.6	0	0	0
	15 分	6800	0.54	58.3	41.6	5.6	13.0	18.6
菌液	30 分	5650	,0.45	51.8	48.1	10.0	16.6	26.6
注射	1時間	5900	0.47	44.5	55.5	13.6	67.0	80.6
射後經過時間	2時間	13000	1.04	16.8	83.1	17.3	75.0	92.3
時間	4時間	10400	0.83	20.5	79.5	17.0	58.3	75.3
	8時間	11300	0.90	28.0	72.0	4.3	18.3	22.6
總	和	53050	4.23	219.8	379.8	67.8	248.2	316.0

喰菌率=6.0

三十分煮沸滤液〇•五竓注射後 第三十表 ノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	,白	血球	= 7	1 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	乡 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	-1 - -
注	射	前	8700	1.00	55.8	41.1	0	0	0
	15	分	7800	0.90	74.3	25.6	8.3	26.0	34.3
函液	30	分	5650	0.65	61.6	38.3	11.0	63.6	74.6
菌液注射後經過時間	1 8	寺間	5600	0.64	56.6	43.3	11.0	61.0	72.0
經過	2 ₽	寺間	10800	1.24	33.0	67.0	18.0	84.3	102.3
時間	4 8	寺間	12400	1.42	38.3	61.6	11.6	53.3	64.9
	8 🛭	寺間	7400	0.85	35.1	64.8	15.3	88.6	103.9
總		和	49650	5.70	298.9	300.6	75.2	376.8	452.0

喰菌率=9.1

穿刺 振盪シ液ヲ混和セリ。 十竓ヲ無菌的ニ採リ等量ノ○•五%石炭酸加○•八五%食鹽水ヲ加へ氷室内ニ保存 標準菌液 六十分及ビ百二十分煮沸濾液ヲ製シ實驗ニ供シタリ。 菌量一•○蚝中○•○○三五竓 原液、三十分煮沸濾液、六十分煮煮濾液及ビ十分二百煮沸濾液〇・五竓注射後ノ喰菌作用 次デ之レヲ遠心(上澄)乃至五分間煮沸乃至遠心乃至濾過ノ順序ニ スル コト 從ヒ原液ヲ得 四晝夜、 其 ノ間 尚ホ之レョリニ 此 時 々手ヲ以テ ノ膿二百五

實驗第

韶 和二年 十月二十四日) ニヨリテ得タル膿ハ濃厚ニシテ帶綠黃色ヲ呈シ乾酪樣物質ヲ多量ニ混入ス。 原 著 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

傾向ヲ示 現っ 菌體ヲ セリ。 包喰セ 丽 В テ「喰」ノ總和ハ原液注射動物ハ六七·八、三十分煮沸注射動物群ハ七五·二、六十分煮沸濾液注射動 ル喰細胞數「喰」ハ各注射群共大體ニ於テ菌液注入後二時間目ニ最頂點ニ達シ、 所見概括

所見ハ第二十九表乃至第三十二表迄又ハ第七圖ニ揭ゲラレタ

Α 實驗結果

第三十一表 六十分煮沸滤液○•五竓注射後ノ 喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	M £	求 二	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多 型	核
			容球	球率	36	%	喰	菌	子
注	射	前	10000	1.00	44.5	55.5	0	0	0 ,
	1	分	5380	0.51	49.1	50.8	12.3	34.3	46.6
南過液時	20	分	2700	0.25	67.5	32.5	9.6	44.0	53.6
注間	18	寺間	2550	0.24	52.4	47.6	14.6	81.6	96.2
射 後 經	2 8	寺間	6150	0.58	24.0	76.0	10.6	61.3	71.9
經	4 1	時間	5880	0.55	28.3	71.6	1::.0	49.6	62.6
	8 🛭	時間	7800	0.74	30.1	69.8	8.6	39.0	47.6
總		和	30460	2.87	251.:3	348.3	68.7	3(9.8	378.5

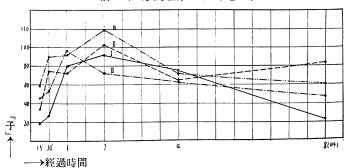
喰菌率=19.2

第三十二表 百二十分煮沸滤液〇•五竓注射後 ノ喰菌作用(三頭分平均)

		destruction of the second	血積絕	白增	白	M I	求二	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
ļ			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	11700	1.00	51.5	48.5	0	0	0
	15	分	7800	0.67	58-3	41.6	14.6	43.6	58.2
菌過 液時	30	分	7100	0.61	46.5	53.5	15.6	73.6	89.2
注間	1 8		7800	0.67	26.5	73.5	14.3	77.0	91.3
射後經	2 №	計間	11100	0.95	19.6	80.3	17.3	102.0	119.3
經	4 1	制	7400	0.63	27.6	72.3	15 3	50.0	71.3
	8 🖪	計問	8700	0.74	26.8	73.1	14.0	46.0	60 0
總	;	和	49900	4.27	205.3	394.3	91.1	398.2	489.3

喰菌率=9.8

第七圖 各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係 (第二十九表乃至第三十二表參照)



六四一

夫ョリ漸次減退ノ

物群ハ六八・七、 百二十分煮沸濾液注射動物群ハ九一・一ニシテ原液群ハ何レノ煮沸濾液群ヨリモ小ナリキ

液ハ何レモ原液ヲ凌駕シ特ニ百二十分煮沸濾液群ノ示シタル「菌」ハ最大ナリキ。 八•二、三十分煮沸濾液群ハ三七六•八、六十分煮沸濾液群ハ三〇九•八、百二十分煮沸濾液群ハ三九八•二ニシテ煮沸濾 被喰菌數「菌」ハ「喰」ト同様ノ經過ヲ示シ菌液注射後二時間目ニ最高トナリタリ。 而シテ 菌」ノ總和ハ原液群ハ二四

四 四九六五〇、六十分煮沸濾液注射動物ハ三〇四〇〇、百二十分煮沸濾液注射動物ハ四九九〇〇ニシテ六十分煮沸濾液群 七〇、六十分煮沸濾液群ハ二・八七、百二十分煮沸濾液群ハ四・二七トナリ六十分煮沸濾液ハ稍~小ナリキ。 十分煮沸濾液群ハ三七八•五、百二十分煮沸濾液群ハ四八九•三ニシテ百二十分煮沸濾液ハ最大、原液ハ最小ナリキ。 ハ稍~小ナリシガ他ノ三群ハ略~近似セリ。又白血球增減率/和ヲ見ルニ原液群ハ四•二三、三十分煮沸濾液群ハ至五 ノ狀態ニ接近スル傾向ヲ示セリ。 血液單位容積內白血球絕對數ハ各動物群共菌液注射後白血球過少ヲ惹起シタレドモ八時間目ニハ各群共略 喰菌率ヲポメタルニ原液群ハ六∙○、三十分煮沸濾液群ハ凡九、 喰菌子數「子」モ亦「喰」「菌」ト同様ノ經過ヲ辿リ其ノ總和ハ原液群ハ三一六∙○、三十分煮沸濾液群ハ四五二•○、 而シテ白血球絕對數ノ總和ハ原液注射動物ハ五三〇五〇、三十分煮沸濾液注射動物 一六十分煮沸濾液群ハーニ・九、百二十分煮沸濾液 ~ 注射前 六

實驗第二 原液、 三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液一・〇竓注射後喰菌作用

A 實驗結果

群ハ九・八ナリキ。

所見ハ第三十三表ョリ第三十六表迄及ビ第八圖ニ就キテ見ルベシ。

B 所見概括

七九・二ニシテ煮沸濾液ハ何レモ原液ヲ凌駕セリ。 達シタリ。 喰細胞數「喰」ハ原液群ニアリテハ菌液注射後一時間目ニ、又煮沸濾液群ニアリテハ二時間目乃至四時間 「喰」ノ總和ハ原液群五八•二、三十分煮沸濾液群六八•五、六十分煮沸濾液群八九•五、百二十分煮沸濾液群 目

第三十三表 原滤液一•○竓注射後ノ喰菌作用 (三頭分平均)

九 三

一、六十分煮沸濾液三五五·五、

百二十分煮沸濾液ハ三二七・三ョ示シ六十分煮沸濾液注射群ハ最大ナリキ。

而シテ其

總和、原液群、三六三・〇、三十分煮沸濾液群

而シテ其ノ總和

ハ原液ニ於テハ三○四・八、三十分煮沸濾液ハ二九

從ラ喰菌子數「子」モ「喰」又ハ「菌」ト同様ニ推移シタリ。

=

被喰菌數菌ハ略~「喰」ト同様ノ經過ヲ示シタリ。

		血積絕	白增	白	血 轫	=	百 個	中
		液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	7650	1.00	61.1	38.8	0	0	0
	15 分	6600	0.86	79.6	20.3	5.0	11.6	16.6
南液	30 分	6500	0.85	68.3	31.6	6.3	38.3	44.6
菌液注射後經過時	1時間	4400	0.58	42.5	57.5	16.3	107.0	123.3
經過	2 時間	10750	1.41	29.6	70.3	13.6	77.0	90.6
時間	4時間	6600	0.86	31.6	68.3	11.0	49.3	60.3
	8時間	6400	0.84	38.0	62.0	6.0	21.6	27.6
總	和	41250	5.40	289.6	310.0	58.2	304.8	363.0

喰菌率=8.8

三十分煮沸滤液一・〇竓注射後ノ喰菌作用 第三十四表 (三頭分平均)

		血積絕	白增	白	血動	k =	百 個	中
		液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
		容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	11700	1.00	46.4	53.6	0	0	0
	15 分	7100	0.61	57.6	42.3	8.6	32.6	41.2
菌液	30 分	5900	0.51	52.3	47.6	11.6	44.6	56.2
注射统	1 時間	5350	0.46	33.6	66.3	13.0	76.3	89.3
校 經 溫	2 時間	18300	1.56	14.1	85.8	16.3	78.3	94.3
後經過時間	4時間	12900	1.10	22.6	77.3	13.0	47.0	60.0
'~'	8時間	10600	0.91	26.5	73.5	6.0	20.3	26.3
総	和	60210	5.15	206.7	392.8	68.5	299.1	367.6

喰菌率=6.1

					, , , ,				
			血積絕液內對	白增	白	ш £	龙 二	百 個	中
			型白數 單白數	血減	淋巴球	中	性	多 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	削	10400	1.00	37.5	62.5	0	0	0
	15	分	7300	0.70	48.8	51.2	21.0	66.0	87.0
菌過 液時	30	分	3600	0.37	58.0	42.0	11.5	48.5	60.0
注間	1 8	寺間	4050	0.39	45.0	55.0	9.0	48.5	57.5
射後經	2 ₽	 春間	7650	0.74	24.3	75.7	15.0	84.5	99.5
經	4 8	寺間	5700	0.55	16.8	83.2	20.0	71.0	91.0
	8 🛭	寺間	5200	0.50	32.5	67.5	13.0	37.0	50.0
셇		 和	33500	3.25	225.4	374.6	89.5	355.5	445.0

喰菌作用(三頭分平均)

六十分煮沸滤液一•○竓注射後/

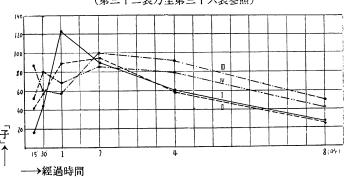
喰菌率=13.3

第三十六表 百二十分煮沸液一•○竓注射後ノ 喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	Шŧ	完 统	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	10300	1.00	27.6	72.3	0	0	0
	15	分	8800	0.85	38.0	62.0	13.0	38.6	51.6
南過 液時	30	分	8000	0.78	33.1	66.8	15 6	64.6	80.2
注間	18	寺間	5000	0.49	20.0	80.0	11.3	56.6	67.9
射 後 經	2 8	寺間	14850	1.44	28.1	71.9	17.0	69.6	86.6
經	4 8	寺間	8500	0.83	30.8	69.2	14.3	64.6	78.9
	8 #	寺間	6500	0.63	25.8	74.2	8.0	33.3	41.3
總		和	51650	5.02	175.8	424.1	79.2	327.3	406.5

喰菌率=7.9

第八圖 各注射材料ト喰菌子數「子」トノ關係 (第三十三表乃至第三十六表參照)



最大ノ喰菌子價ヲ示シタルハ六十分煮沸濾液ナリキ。 四 血液單位容積內白血球絕對數ハ大體ニ於テ各群共菌液注射後白血球過少ヲ惹起セ 二五〇、 三十分煮沸濾液群ハ六〇二一〇、六十分煮沸濾液群ハ三三五〇〇、

三六七·六、六十分煮沸濾液群

ハ四四五・○、百二十分煮沸濾液群ハ四○六・五ニシテ煮沸濾液

何

Æ 原液

大

且

第三十五表

トナ

'n,

又白血球增減率ハ原液五•四〇、

三十分煮沸滤液五・一五、

六十分煮沸濾液ハ三・二五、

百二十分煮沸濾液、五

ッ。

丽

シテ白血球總和

百二十分煮沸濾液群ハ

Ŧi.

一六五〇

六四四

0== 同 時 檢 シ テ シ 得 絕對數 タル 淋巴球及ビ = テ Æ 增 |喰細胞 減比 率 %數 = 於テ = 於テモ各群ハ モ六十分煮沸濾液 大同 小異 ハ 稍 ナ ζ y 小 ナ ŋ シ ガ 他 ノ三 者 ハ 比 率 = 於テ 略 ζ 近

似

セ

ッ。

叉

K. 喰 菌 率 ヲ 求 メ タ jν 原液 群 ハ 八、八、 三十分煮沸液群 六十分煮沸液群 百二十 分煮沸 濾

7.9 Ξ 所見總括

本例ノ第一、 第二 實 驗 結 果ヲ 總 括 シ テ **第三十** ・七表ヲ 得 タ ッ。

327.3 406.5 シ タ ıν 喰菌作用全體 = 原液及ビ六十 1 指 -分煮沸 標 タ ıν 滤液 喰菌子ハ 群 ハ之レ 注射量ヲ○・五竓 ŀ 連 行 シ テ / 増大シ 3 リ • タ V F, 竓 Æ =

濾 順位パ 分及ビ 實驗第一ニ 百二十分煮沸滤 於テハ百二十分煮沸濾液、 液群 ٨, 却テ 減 退セリ。 三十 而 シ テ **分煮沸滤液**、 獲 タ jν 喰 菌子 六十 數

分煮洲

1

大 \equiv

小

倍

加

百三 凌駕セリ。 液、 十分煮沸濾液、三十分煮沸濾液、 六十 分煮沸 滤液. 原液 ニシテ叉實驗第二ニ 原液 ŀ ナ ŋ り終えた 八煮沸濾液ハ常い大十分煮沸減 滤 = > 原、 液 液、

液 群 白血 ハ 他 ラ三 球 絕 對 者 黢 3 及ビ IJ 少 チ 增 y 減 キ 比 率 Ŧ 而 觀 シ テ三十分、 ıν 實驗第 百二十分及ビ原液群 第二共二六十 分煮沸 絕

濾

Ξ 最 小 ナ 喰 菌率 ıν 率 ذر 實驗 每常六、 第 + 分煮沸滤液 於 テ ハ 原液 群 = 實驗第二二於テ 3 IJ テ 最 大 數 ヺ゙ ハ三十分煮沸滤液 示 サ ν タ IJ 丽 €/ 群 テ

第三十七表 各注射材料ニョル喰菌作用總括 (第二十九表乃至第三十六表參照)

喰

67.8

75.2

68.7

91.1

58.2

63.5

89.5

79.2

菌

248.2

376.8

309.8

398.2

304.8

299.1

355.5

子

316.0

452.0

378.5

489.3

363.0

367.6

445.0

率

6.0

9.1

12.9

9.8

8.8

6.1

13.3

原表

29

30

31

32

33

34

35

36

九ナリキ。

起血白

4.23

5.70

2.87

4.27

5.40

5.15

3.25

5.02

比率

y テ 示 サ

注 射料

原濾液

30分煮

沸滤液

60分点

沸滤液

120分煮

沸滤液

原滤液

30分煮

沸滤液

60分煮 沸滤液

120分素 沸渍液

數

ŧ

增

減

比

率

モ

略

3

致

セ

ッ。

實驗

第

Ó

五

竓

第

ċ

竓

白血球

絕對數

53050

49650

30460

49900

41250

60210

33500

51650

=

VI

第六例 ν タ ッ。

原

著 結核性脊椎炎患者ノ流 注膿瘍中ニ 一含有 セラレタル「イムペヂン」ノ立證

S K

女

二十二歲

第三十八表 原濾液〇・五竓ヲ以テノ喰菌 作用(三頭分平均)

			血積絕液內對	白增	白	血球	= 1	百 個	中
			股内對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	10800	1.00	76.5	23.5	0	0	0
	15	分	9900	0.92	72.8	27.1	7.6	24.0	31.6
菌液	30	分	9000	0.83	53.3	46.7	18.0	86.6	104.6
任射	1時	間	7700	0.71	41.6	58.3	16.0	88.3	104.3
菌液注射後經過時間	2 時	間	10250	0.95	26.3	73.7	14.6	55.3	69.9
時間	4時	間	6200	0.57	35.7	64.3	14.0	48.0	62.0
	8時	間	8450	0.78	40.5	59.5	5.3	18.6	23.9
、總	釆	10	51500	4.76	270.2	329.6	75.5	320.8	396.3

喰菌率=7.7

第三十九表 三十分煮沸滤液○•五竓ョ以 テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= 1	百 個	中
			液内對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	10000	1.00	52.0	48.0	0	0	0
	15	分	6900	0.69	65.3	34.7	14.3	33.0	47.3
函液	30	分	6500	0.65	67.0	33.0	12.3	76.0	88.3
菌液注射後經過時間	1 🛭	寺間	7100	0.71	36.1	63.8	17.0	113.3	130.3
經過	2 ₽	寺間	11400	1.14	24.0	76.0	22.3	105.0	127.3
時間	4 0	寺間	9550	0.95	26.0.	74.0	19.0	67.0	86.0
	8 1	寺間	9000	0.90	29.1	70.8	18.3	19.6	37.6
總		和	50450	5.04	247.5	352.3	103.2	413.9	517.1

喰菌率=10.2

消失シ 診斷 十一ケ年前ョ バ疼痛ヲ訴フ 局所ノ 結核性胸腰椎炎 疼痛モ リ脊椎炎 ナ ク 健 罹リ流注膿瘍ヲ生ジ數囘穿刺排膿 左腸骨窩流注膿瘍 康狀態ニ 經過セ ッ。

穿刺

(昭和二年十月二十八日)稀薄黄褐色ノ膿ヲ多量ニ

排出ス。

該膿二百竓ヲ無菌

的

採集シ

其 (儘直

チ

强烈

遠心シ

上

轉

然ル 約六ヶ月前ョリ次第ニ 「ギプス」固定ヲ受ケ一時 左下肢 股關節部ニテ屈曲位 輕快シ、 最近三年間 流注 攣縮 膿瘍 シ伸

實驗結果

六四七

六十分煮沸滤液〇•五竓ヲ以テノ 第四十表 喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	自	血球	=	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	6450	1.00	52.1	47.8	0	0	0
	15	分	5550	0.86	69.7	30.3	12.0	32.3	44.3
南液法	30	分	4850	0.75	64.0	36.0	15.6	88.6	104.2
注射经	1時間		3600	0.56	58.0	42.0	25.0	185.6	210.6
射後經過	2 時間		4800	0.74	35.3	64.7	25.3	149.3	174.6
過時間	4時間		5800	0.90	33.7	66.3	19.0	102.2	121.3
	8 🖪	制	5850	0.91	38.0	62.0	18.0	84.0	102.0
總		和	30450	4.72	298.7	301.3	114.9	642.1	757.0

喰菌率=24.9

百二十分煮沸滤液○•五竓ョ 第四十一表 以テノ喰菌作用(三頭分平均)

		•	血積絕	白增	白	ĺп. з	球	=	百	個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	1	中	性	多	型	核
			容球	球睾	%	%		喰		菌	子
注	射	前	10800	1.00	52.5	47.5	5	0		0	0
菌液注射後經過時間	15	分	6450	0.60	75.8	24.1	L	10.0	1	25.0	35.0
	30	分	8100	0.75	69.0	31.0)	13.0	1	53.6	66.6
	18	寺間	5500	0.51	57.1	42.8	3	14.3	1	58.0	72.3
	2時間		13600	1.26	24.0	76.0)	13.0	4	12.0	55.0
	4 時間		10800	1.00	25.3	74.7	-	15.0	E	55.0	70.0
16-7	8 8	寺間	12000	1.11	33.3	66.7		12.0	8	33.6	45.6
總		和	56450	5.23	284.5	315.3	:	77.3	26	37.2	344.5

喰菌率=6.1

標準菌液 |・○竓中約○・○○三五竓 / 菌體ヲ含有ス。 原液、三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液〇・五竓注射後ノ喰菌作用

二移スモ菌ノ發育ナシ。

分及ビ百二十分煮沸濾液ヲ作リタリ。

澄ト膿沈渣トニ分チ上澄ヲ前記ノ方法ニ從ヒ原液ヲ得之レニ○•五%ノ割合ニ石炭酸ヲ加

尙ホ穿刺ニョリテ得タル膿中ニハ菌體ヲ證明シ得ズ。又膿ヲ塞天或ハ肉汁培養基

ヘタ y,

之レョリ三十分、六十

六四八

所見ハ第三十八表乃至第四十一表及ビ第九圖ニ揭ゲタリ。

B 所見概括

き。 九 液、七五・五、三十分煮沸濾液、一〇三・二、六十分煮沸濾液 ν 分目二叉煮沸滤液注射群 3 リ次第ニ減少セリ。 現ニ菌體ヲ包喰セル喰細胞數「喰」ハ原液注射群ハ菌液注入後三十 百二十分煮沸濾液ハ七七・三ニシテ原液ヲ以テノ「喰」ハ最小ナリ 各注射材料ノ示シタル「喰」ノ總和ヲ 二時間目乃至四時間目ニ最大數 ニ達シ、 観ル 二原 四 其

濾液ハ最大ニシテ三十分煮群濾液ト共ニ壓倒的ニ原液ヲ凌駕セリ。十分煮沸濾液ハニ六七・ニニシテ百二十分煮沸濾液群ハ六四ニ・一、百二リ其レヨリ漸次減退セリ。而シテ「菌」ノ總和ハ原液群ハニニ○・八、三リ其レヨリ漸次減退セリ。而シテ「菌」ノ總和ハ原液群ハニニ○・八、三川、被喰菌數「菌」ハ各注射材料群共ニ菌液注射後一時間目ニ最高トナ

時間目ニ最大トナリ、二時間目ョリハ次第ニ減少セリ。「子」ノ總和】、従テ喰菌子數「子」モ亦略~「菌」ト同様ノ曲線ヲ示シ、菌液注射後認、最大ニシテ三十分煮群濾液ト共ニ壓倒的ニ原液ヲ凌駕セリ。

第九圖 各注射材料ト喰菌子數「子」ト關係 (第三十八表乃至第四十一表參照)

四四·五 観ル トナリ六十分及ビ三十分煮沸濾液ハ共ニ原液ヨリモ 原液群ハ三九六・三、三十分煮沸濾液群ハ五一七・一、六十分煮沸濾液群ハ七五七・○、百二十分煮沸濾液群 顯著ナリキ。

四 分煮沸濾液群ハ三〇四五〇、 白血球數ニ恢復スル傾向ヲ示セリ 血液單位容積內白血球絕對數ハ菌液注射後各動物群共ニ白血球過少ヲ惹起セ 百二十分煮沸濾液群ハ五六四五〇ニシテ六十分煮沸濾液ハ稍~小ナレドモ 白血球數 ノ總和ハ原液群ニテハ五一五〇〇、 三十分煮沸濾液群 ッ。 然レド モ八時間 拞 目二 他ノ三者 〇四五〇、 於テハ正常時 略

ゼ

ヲ示セリ。

沸濾液ハ五•二三ニシテ各群共大同小異ナリキ。又同時ニ檢シ得タル中性多型核細胞及ビ淋巴球%數

ハ六・一ニシテ「子」ノ場合ト同ジク三十分乃至六十分煮沸濾液ハ絕對ニ原液ノ追從ヲ許サザリキ。

喰菌率ハ原液群ニテハ七・七、三十分煮沸濾液群ニテハ一○・二、六十分煮沸濾液群ハ二四・九、

百二十分煮沸滤液群

モ略~同様ナル所見

叉白血球増減比率ノ和ヲ案ズルニ原液ニテ四•七六、三十分煮沸濾液ハ五•○四、六十分煮沸濾液ハ四•七二、百二十分煮

原

原濾液一・○竓ヲ以テノ喰菌 第四十二表 作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	自	血球	= 1	有 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	10750	1.00	50.8	49.1	0	0	0
	15	分	6200	0.80	59.3	40.7	9.3	24.0	33.3
菌液法	30	分	5900	0.76	58.9	41.1	13.6	47.3	60.9
注射经	18	寺間	8000	1.03	41.5	58.5	13.6	56.0	(9.6
射後經過時	2時間		8100	1.04	.37.5	62.5	15.3	80.6	95.9
時間	4 8	時間	7300	0.84	37.1	62.9	11.6	48.0	59.6
	8 🖪	時間	€900	0.89	34.3	65.7	7.6	15.0	22.6
總		和	42400	5.46	268.0	331.4	71.0	270.9	341.9

喰菌率=8.1

三十分煮沸滤液一•○竓ョ以 第四十三表 テノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= ī	有 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性纟	多型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	7000	1.00	56.1	43.9	0	0	0
	15	分	5200	0.74	62.9	37.1	12.6	34.3	46.9
菌液注射後經過	30	分	4800	0.69	57.1	42.9	18.6	87.0	105.6
社射経	1 🛭	寺間	4450	0.64	42.1	57.9	17.0	109.6	126.6
經過	2時間		5950	0.85	21.3	78.7	20.0	93.0	113.0
時間	4 8	寺間	4900	0.70	35.3	64.7	13.0	54.6	67.6
	81	寺間	6000	0.86	36.5	63.5	10.3	34.6	44.9
總	٠	和	31309	4.48	255.2	344.8	91.5	413.1	504.6

喰菌率=16.1

六十分煮沸濾液及ビ百二十分煮沸濾液一・〇%注射後ノ喰菌作用

所見ハ第四十二表ョリ第四十五表迄及ビ第十圖ニ揚ゲタリ。

В

所見概括

喰細胞數「喰」ハ原液注射動物ニアリテハ菌液輸送後二時間目ニ、

煮沸濾液注射動物ハ二時間目乃至四時間目

= 最高 實驗第二

原液、

三十分煮沸濾液、

Α

實驗結果

六十分煮沸滤液一・○竓ヲ以テノ 第四十四表 喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血对	ŧ =	百 個	中
			液內對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
注	射	前	10700	1.00	38.7	61.3	0	0	0
	15	分	7300	0.68	55.0	45.0	10.6	27.3	37.9
菌過 液時	30	分	5100	0.48	53.3	46.7	14.0	70.3	84.3
注間	1 8	間	5100	0.48	37.1	62.9	11.0	48.0	59.0
射谷	2 1	制	16600	1.55	15.5	84.5	16.3	87.0	103.3
後經	4 0	制	13250	1.24	18.5	81.5	14.6	64.0	78.6
	8 1	計間	12150	1.14	29.7	70.3	13.3	65.0	78.5
總利		和	59500	5.57	209.1	390.9	79.8	361.6	441.4

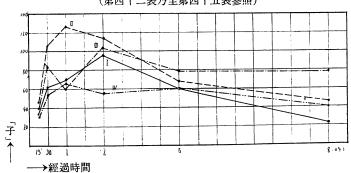
喰菌率=7.4

第四十五表 百二十分煮沸滤液一・○竓ヲ以テ ノ喰菌作用(三頭分平均)

			血積絕	白增	白	血球	= #	百 個	ф
			液内對 單白數 位血	血減	淋巴球	中	性	多 型	核
			容球	球率	%	%	喰	菌	子
洼	射	前	12500	1.00	49.5	50.5	0	, 0	0
	15	分	7800	0.62	72.3	27.7	9.0	21.6	30.6
菌渦 液時	30	分	8000	0.64	64.1	35.9	10.0	44.0	54.0
注間	1 %	制	4850	0.39	59.1	40.9	11.6	53.3	64.9
射後經	2時間		14600	1.17	20.1	79.9	11.5	43.6	55.1
經	4 1	計間	14000	1.12	9.5	80.5	13.3	46.6	59.9
	8 展	制	13600	1.08	28.9	71.1	11.3	28.6	39.9
總		和	62850	5.02	264.0	336.0	66.7	237.7	304.4

喰菌率=4.8

第十圖 各注射材料ト喰菌子數「子」トノ關係 (第四十二表乃至第四十五表參照)



六五〇

分煮沸濾液群 7 シ タ り。 ハ六六・七ナリ 而 シテ「喰」ノ 總和 ハ 原液群 ハ七一・○、三十分煮沸濾液群ハ九一・五、 六十分煮沸濾液群ハ七九・八、

百二十

丽

テ 被喰菌数一菌」ハ原液群ニテ 菌 總和 ハ原液群ハニ七○・九、 ハ 菌液 注射 三十分煮沸濾液群、四一三・一、 後 一時 間 目 =, 又煮沸濾 液 群 六十分煮沸濾液群、三六一・六、百二十分煮沸濾 ŀ 時 間 目 乃至二時 間 目 = 最大數 ٢ ナ ν ッ。

液

群

ハニ三七・七ナリ

(第三十八表乃至第四十五表參照) 白血球 增减率 白血球 射 子 原表 喰 菌 率 絕對數 料 原滤液 51500 4.76 75.5 320.8 396.3 7.7 38 30分煮 5.04 103.9 517.1 10.2 50450 413.9 39 沸濾液 60分煮 30450 4.72114.9 642.1 757.024.9 40 沸滤液 120分煮 沸濾液 56450 5.23267.26.1 41 77.3244.5270.9 42原濾液 42400 5.4571.0341.9 8.1 30分煮 4.48 413.1 504.616.1 43

361.6

237.7

441.4

304.4

7.4

4.8

44

45

91.5

79.8

66.7

各注射材料ニョル喰菌作用總括

= 分煮沸濾液 濾液ハ三○四•四ニシテ百二十分煮沸濾液 |十分煮沸濾液ハ五〇四•六、六十分煮沸濾液ハ四四 喰菌子數「子」ハ「菌」ト ハ原液ヲ遙 カニ凌駕セリ。 略 ζ 同 樣 1 曲 線ヲ ハ 最小ナレド 示 シ 總和 一·四· 百二十分煮沸 ハ原液ハ三四 モ 三十分及ビ六十 九

二八五〇ニシテ増減率ノ和 濾液 (三一三〇〇、 六十分煮沸濾液、五·五七、 喰菌率ヲポム 血液單位容積內白血球絕對數ハ原液ニ於テハ四二四〇〇、 六十分煮沸濾液、五九五〇〇、 ニ原液群ニテハ八・一、三十分煮沸濾液群ハ一六・一、 ハ原液ハ五・四六、三十分煮沸濾液ハ四・四八、 百二十分煮沸濾液ハ五・〇二ナリ 百二十分煮沸濾液八六

三十分煮沸

遮液群ガ最大ナリキ。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。、六十分煮沸濾液群ハ七•四、

所見總括

31300

59500

62850

5.57

5.02

五

ıν

百二十分煮沸濾液群ハ四・八ニシテ三十分煮沸

第四十六表

注材

實驗

Ō

五

竓

第

二(一•〇竓)

沸濾液

60分煮

沸滤液

120分煮

沸滤液

實驗第一、第二ノ結果ヲ 總括 於テハ六十分煮沸濾液。 群。 タ IJ

=

1

シ タ

薪然 實驗第一 (〇·五竓) 頭 地ヲ拔キ最高位ヲ占メ三十分煮喰濾液群之レ = 示 次ギ ·原液群 w 喰菌子

林 結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

六五

原 窘

而シテ全群共注射量ヲ○•五竓ヨリ一•○竓ニ增大シタルニ却テ喰菌子數ハ減少セリ。 位トナリ百二十分煮沸濾液ハ原液ヨリ稍~小ニシテ最下位トナリタリ。又實驗第二(一•○竓)ニ於テハ三十分煮沸濾液群 最大ニシテ第一位、 六十分煮沸濾液ハ第二位、原液群ハ第三位、百二十分煮沸濾液群ハ最小ニシテ第四位ヲ占メタリ。

=

白血球絕對數又ハ增減比率ハーニノ所見ヲ除キ大體ニ於テ各群共略~近似セリ。

乃至三十分煮沸濾液群ガ第一位ヲ占メ百二十分煮沸濾液群ハ常ニ最下位ヲ示セリ。 = 喰菌率モ亦「子」ト同ジク注射量ノ増大ニ逆行シテ減退セリ。 而シテ喰菌率ノ大小順位ハ喰菌子ノ場合ト同様六十分

VII 第七例

G F 男 三十二歳 鐵道從業員

診斷 結核性腰椎炎

三十分、六十分、百二十分煮沸濾液ヲ作リタリ。 得ズ。該膿一○○竓ニ等量!○•五%石炭酸加○•八五%食鹽水ヲ加へ一晝夜氷室中ニ靜置シ上記ノ方法ニ從ヒ原液及ビ 穿刺(昭和三年九月十九日)稀薄帶綠黃色ノ膿ニシテ乾酪樣物質ヲ混在ス。普通培養上又ハ膿塗抹標本ニテ菌體ヲ證明シ 二年前ヨリ腰痛ヲ訴へ約四ケ月前ニ左下腹部ニ無痛性ノ腫瘍ノアルニ氣付キタリ。 未ダ穿刺ヲ受ケタル = トナ シ。

標準菌液 一・○竓中約○・○○二一瓩ノ菌體ヲ含有セリ。

竓注射後ノ喰菌作用 實驗第一 原液、 三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液、百二十分煮沸濾液及ビ〇・五%石炭酸加〇・八五%食鹽水〇・五

實驗結果

所見ハ 第四十七表乃至第五十一表及ビ第十一圖乃至第十三圖ニ揭ゲラレタリ。

В 所見概括

現 ニ菌體ヲ包喰セル喰細胞數 「喰」 ハ六十分煮沸濾液ハ菌液注射後一 時間日ニ 他ノ四材料ハ二時間目 最大數ニ達

第四十七表 原滤液○•五竓注射後ノ喰菌作用

		血容血吸 液積球	白增	白	血动	ŧ . <u></u>	百 個	中
		單內絕	血減	淋巴球	中		多 型	核
		位白對	球率	%	%	喰	南	子
注	羽 前	7700	1.00	54.0	39.3	0	0	0
菌液	30 分	10000	1.30	55.0	39.8	12.6	49.0	61.6
注射	1時間	9600	1.25	31.5	61.1	12.3	48.3	60.6
後 經 -	2 時間	14300	1.86	18.8	77.6	21.6	82.0	103.6
過時	4 時間	10700	1.39	29.3	67.6	12.6	44.3	56.9
間	8時間	14300	1.86	23.0	72.5	12.0	34.3	46.3
總	和	58900	7.66	157.6	318.6	71.1	257.9	329.0

喰菌率=5.6

(三頭分平均)

群ハ六七・八ニシテ三十分煮沸濾液群ニ於テ最大ノ「喰」ヲ示シタリ。

ハ原液ハ七一・一、三十分煮沸濾液ハ一○二・八、六十分煮沸濾液ハ七○・九、

和

四時間目、

八時間目ハ漸次ニ減退セリ。

而シテ菌液注射後三十分目ョリ八時間目迄五囘ニ亙リ檢シ得タル「喰」ノ總

百二十分煮沸濾液群ハ四八・二、食鹽水

第四十八表 三十分煮沸滤液〇•五竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球	自增	白	血	求 二	百 個	中
		單內絕 位白對	血減 球率	淋巴球	中 %	性	多型 菌	核 子
i.E	射 前	9800	1.00	52.0	40.3	0	0	0
南	30 分	8100	0.83	53.8	41.3	19.3	51.6	70.9
液注	1 時間	6000	0.61	47.0	45.3	20.6	70.0	90.6
射後經過時	2時間	7200	0.73	33.0	60.1	25.6	94.6	120.2
過時	4 時間	8000	0.82	25.6	64.8	21.3	57.6	78.9
間	パ時間	11000	1.12	37.5	57.5	16.0	50.0	66.0
總	和	40300	4.11	196.9	269.0	102.8	323.8	426.6

喰菌率=10.6

(三頭分平均)

第四十九表 六十分煮沸滤液○•五竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球 單內絕 位白對	白增 血減 球率	泊 淋巴球 %	血 り り り り		百 個 多 型 荫	中 核 子
注	射 前	6900	1.00	53.0	41.3	0	0	0
菌	30 分	8100	1.17	49.3	47.5	15.0	43.6	58.6
液注射	1時間	5900	0.85	40.3	57.1	17.0	78.3	95.3
後經過	2時間	11300	1.64	23.8	73.0	14.3	71.3	85.6
過時	4 時間	7300	1.06	23.6	73.1	14.3	44.0	58.3
間	8時間	10550	1.53	34.0	61.3	10.3	29.6	39.9
總	和	43150	6.25	171.0	312.0	70.9	266.8	337.7

喰菌率=7.8

(三頭分平均)

六五三

第五十表 百二十分煮沸滤液○•五年注射後ノ喰菌作用

リ以

後漸次減退セリ。

菌

総和ハ

被喰菌數「菌」ハ六十分煮沸濾液群及ビ食鹽水群ハ菌液注射後

射動物ハ二六六•八、百二十分煮沸濾液注射動物ハ一三五•二、食鹽水注射動物ハ二二一•九ニシテ是亦二十分煮沸濾液群

原液注射動物、二五七・九、三十分煮沸濾液注射動物、三二三・八、六十分煮沸濾液注

時間目

一他ノ

三者ハ二時間目ニ最大數ニ達

シ 其

		血容血數 液磺球 單內絕 位白對	白增 血減 球率	白 淋巴球 %	血 球 中 %		百 個 多 型 南	中 核 ! 子
注	射 前	11350	1.00	66.0	26.6	0	0	0
南	30 分	7800	0.69	48.8	47.0	10.6	33.0	43.6
液注	1 時間	7350	0.65	30.0	63.5	9.0	32.0	41.0
射後細	2時間	13500	1.19	12.0	86.0	12.0	25.6	47.6
經過時	4時間	9850	0.87	17.8	78.1	10.6	22.0	35.6
間	8時間	8600	0.76	24.0	71.8	6.0	9.6	15.6
總	和	47100	4.16	132.6	346.4	48.2	135.2	183.4

喰菌率=3.9

(三頭分平均)

第五十一表 ○•五%石炭酸加○•八%食鹽水○•五 廷注射後ノ喰菌作用

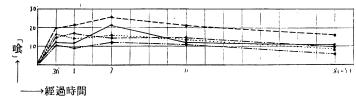
		血容血數 液積球	门增	白	血玉	求 二	百 個	г‡ı
		單內絕位白對	血減 球率	淋巴球	中	性。	多 型 菌	核 子
iE	射 前	6700	1.00	51.0	41.3	0	0	0
菌	30 分	9150	1.36	50.1	45.8	15.6	40.0	55.6
液注	1 時間	7000	1.04	20.5	61.1	14.0	62.3	76.3
射後經過時	2時間	12450	1.86	18.1	77.6	15.6	57.0	72.6
松過時	4時間	8050	1.20	22.0	63.1	13.6	37.0	50.6
間	8時間	8000	1.19	27.3	67.8	9.0	25.6	34.6
總	和	44650	6.65	148.0	315.4	67.8	221.9	289.7

喰菌率=9.5

(三頭分平均)

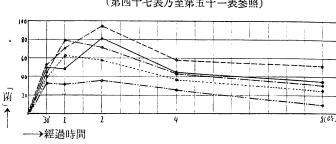
第十一圖 各注射材料ト喰細胞數「喰」トノ關係 (第四十七表乃至第五十一表參昭)

(かに)「ロシングエルエー シンボ)
I 原濾液
Ⅱ 三十分煮沸滤液
Ⅲ -·-·-· 六十分煮沸滤液
IV -··-··- 百二十分煮沸濾液
V 食鹽水
以下第二十二圖迄之=準バ)

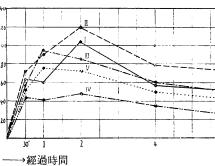


六五四

第十二圖・各注射材料ト被喰「菌」數トノ關係 (第四十七表乃至第五十一表參照)



第十三圖 各注射材料ト喰菌子數「子」トノ關係 (第四十七表乃至第五十一表參照)



於テ最大トナリタ

分煮沸濾液トナル。 三十分煮沸濾液群、四二六・六、六十分煮沸濾液群、三 **分煮沸濾液、六十分煮沸濾液、** 三七・七、百二十分煮沸濾液群ハ一八三・四、 ハ二八九•七ニシテ「子」 ノ大サノ順ニ排列スレバ三十 而シテ「子」ノ總和ハ原液群ニアリテハ三二九•〇、 喰菌子敷 「子」ハ「菌」ト 略い同様ノ曲線ヲ示シタ 原液、 食鹽水、 食鹽水群 百二十

.

鹽水群 四 白血球增減比率、原液群、七・六六、三十分煮沸滤液 群四三一五〇、百二十分煮沸濾液群ハ四七一〇〇、 四・一一、六十分煮沸濾液群、六・二五、 三十分煮沸濾液群ハ 血液單位容積內白血球絕對數ハ原液群ハ五八九〇 ハ四四六五〇ニシテ原液群ハ最大ヲ示 四01100~ 六十分煮沸滤液 百二十分煮 セリ。 叉

沸濾液群ハ四・一六、 食鹽水群ハ六・六五ニシテ是亦原

液群 ţĭ 最大ナリ

淋巴球及ビ中性多型核細胞%敷ハ各注射群共大同小異ナリキ。

九食鹽水ハ六•五ニシテ「子」ノ場合ト同樣三十分煮沸濾液群ハ最大ヲ示セリ。 五 喰菌率ヲポメタルニ原液ニテハ五・六、三十分煮沸濾液ハ一○・六、六十分煮沸濾液ハ七・八、 百二十分煮沸濾液

實驗第二 原液、 三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液百二十分煮沸濾液及ビ〇・五%石炭酸加〇・八五食鹽水一・〇竓注

林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

原

實驗結果

所見ハ第五十二表乃至第五十六表叉ハ第十四圖ヨリ第十六圖迄ニ揭ゲラレ

タリ。

原

第五十二表 原滤液一・○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液碛球 單內絕	白增 血減	自 淋巴球	<u>ф</u> #		百 個	核
		位白對	球率	%	%	喰	菌	子
注	射前	7200	1.00	53.6	35.1	0	0.	0
菌	30 分	6200	0.86	45.3	44.5	14.6	40.3	54.9
液注	1 時間	7500	1.04	29.0	61.8	10.6	39.3	49.9
後郷	2 時間	10300	1.45	21.1	73.3	16.6	49.3	65.9
射後經過時	4時間	7200	1.00	21.6	69.8	19.3	53.0	72.3
間	8時間	8800	1.22	24.8	70.5	16.6	43.0	59.6
總	和	40000	5.55	14128	319.9	77.7	234.9	302.6

喰菌率=7.6

(三頭分平均)

第五十三表 三十分煮沸滤液一•○竓注射後ノ喰菌作用

			_ , , , ,,,,	1717 0:0:1124				
		血容血數 液债球	白增 血減	白	血球		百 個	中
		單內絕 位白對	球率	淋巴球 %	- 中	性 多	東南	<u>核</u> 子
注	射 前	8400	1.00	42.5	51.6	0	0	0
菌	30 分	11600	1.38	27.3	66.5	25.0	83.3	108.3
菌液注	1時間	8800	1.05	80.3	58.8	21.3	72.3	93.6
射後經過時間	2 時間	9450	1.12	24.8	68.8	27.6	96.0	123.6
過時	4時間	11500	1.37	17.5	79.6	32.3	88.3	120.6
間	8時間	10000	1.19	23.5	73.0	31.0	56.3	77.3
總	和	51350	6.11	123.4	346.7	127.3	396.2	523.4

喰菌率=10.2

(三頭分平均)

第五十四表 六十分煮沸滤液一•○竓注射後ノ喰菌作用,

		血容血数 液積球	白增 血減	白	血球		百 個	中
		單內絕 位白對	球率	淋巴球	· 中 %	性 多 喰	· 型 菌	<u>核</u> 子
注	射 前	8700	1.00	41.8	50.5	0	0	0
菌	30 分	5700	0.65	45.3	49.6	19.6	86.5	106.2
菌液注射	1 時間	7700	0.88	35.5	59.5	18.3	70.6	88.9
射後經過時	2時間	14700	1.69	19.5	76.6	20.6	77.3	97.9
過時	4時間	14900	1.71	20.0	76.0	15.0	51.6	66.6
間	8時間	22400	2.57	29.8	66.1	15.0	48.6	63.6
總	和	65400	7.50	150.1	327.8	88.5	334.7	423.2

喰菌率=6.5

(三頭分平均)

三十分煮沸濾液注射動物

モ四

時間目ニ最大トナリ、

В

所見概括

現ニ菌體ヲ包喰セル喰細胞數「喰」ハ原液注射動物ニ於テハ菌液注射後四時間目ニ最大トナリ、

總和八一二七・二、六十分煮沸濾液注射動物八二

一時間

前後五囘ノ「喰」ノ總

第五十五表 百二十分煮沸濾液一・○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球 單內絕	白增血減	白 淋巴球	血球中	性.	百 個	中核
	射 前	位白對 11150	球率 1.00	46.6	50.6	0 0	菌 0	一子
在	利用川	11130	1.00	40.0	50.0	V	1 0	0
菌液	30 分	9400	0.84	47.8	48.5	9.6	26.6	36.2
液注射	1 時間	11760	1.05	19.1	76.1	12.6	39.6	52.2
射後經	2時間	13600	1.22	17.1	81.1	11.3	31.3	42.6
經過時	4時間	14000	1.26	19.8	15. 8	9.3	28.0	37.3
間	8時間	12000	1.07	19.6	74.3	8.6	20.6	29.2
總	和	60760	5.44	123.4	355.8	51.4	146.1	197.5

喰菌率=3.3

(三頭分平均)

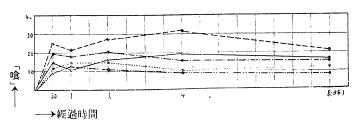
第五十六表 〇•五%石炭酸加〇•八五%食鹽水 一•〇竓注射後ノ喰菌作用

		血容血数 液積球 單內絕	白增 血減	白 淋巴球	血球中		百個	中 核
<u> </u>		位白對	球率	%	%	喰	歯	子
注	射 前	8600	1.00	56.0	38.6	0	0	0
菌	30 分	7800	0.91	68.0	29.8	11.3	45.3	56.6
液注射	1時間	6400	0.74	34.8	52.3	14.3	60.3	74.6
後經	2時間	10250	1.19	19.3	73.6	15.6	54.3	69.9
過時	4時間	8900	1.03	24.6	70.8	9.6	24.0	33.6
間	ゞ時間	8450	0.98	36.1	61.3	1::.6	32.3	45.9
總	和	41800	4.85	182.8	287.8	64.4	216.2	280.6

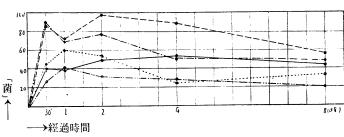
喰菌率=6.7

(三頭分平均)

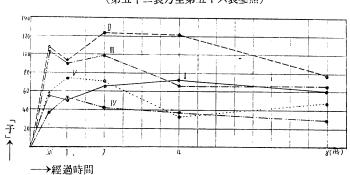
第十四周 各注射材料下喰細胞数「喰」トノ關係 (第五十二表乃至第五十六表参照)



第十五圖 各注射材料ト被喰菌数「菌」トノ關係 (第五十二表乃至第五十六表参照)



第十六圖 各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係 (第五十二表**乃**至第五十六表参照)



第五十七表 各注射材料ニョル喰菌作用總括 (第四十七表乃至第五十六表参照)

實驗	注 射 材 料	白血球 絕對數	白血球 比率	喰	菌	子	率	原表
1	原濾液	58900	7.66	71.1	257.9	329.0	5.6	47
第一	30分煮 沸滤液	40300	4.11	102.8	323.8	426.6	10.6	48
0	60分煮 沸濾液	43150	6.25	70.9	266.8	337.7	7.8	49
五廷)	120分煮 沸濾液	47100	4.16	48.2	135.2	183.4	3.9	50
ļ	食鹽水	44650	6.65	67.8	221.9	289.7	6.5	51
	原濾液	40000	5.55	77.7	224.9	302.6	7.6	52
第二	30分煮 沸濾液	51350	6.11	127.2	396.2	523.4	10.2	53
11(1:	60分煮 沸濾液	65400	7.50	88.5	334.7	423.2	6.5	54
·〇竓)	120分煮 沸濾液	60760	5.44	51.4	146.1	197.5	3.3	55
	食鹽水	41800	4.85	64.4	216.2	280.6	6.7	56

六·二、六十分煮沸濾液群、三三四·七、 食鹽水注射動物 目 ハ嶄然一頭地ヲ拔キタリ。 = 最大數 被喰菌數「菌」ハ大體ニ於ラ「喰」ト同様ノ = 達 シ、 一時間 全經過ノ總和ハ八八•五、 目ニ最大數ヲ占メ、 百二十分煮沸濾液群 經過ヲ示シ其 其ノ總和ハ六四•四ナリ 百二十分煮沸濾液注 ヘノ 總和 四六・一、 ハ原液群 上射動物 ハ

食鹽水群ハニー六・ニュシテ三十分煮沸濾液

テ

ハニニ四・九、

三十分煮沸濾液群ハ三九

溡

問目ニ最大數

ラ示

シ、

總和八五

逈

三・四、六十分煮沸濾液群ハ四二三・二、百二十分煮沸濾液群ハ一四六・一、食鹽水群ハ二八○・六ニシテ是亦三十分煮沸 濾液群ハ絕對ニ他ノ追從ヲ許サザリキ。 喰菌子數「子」モ略~「菌」ト同様ノ曲線ヲ示シタリ。 而シテ其ノ總和ハ原液群ハ三〇二・六、三十分煮沸濾液群ハ五二

Ш ○○、百二十分煮沸濾液群ハ六○七六○、食鹽水群ハ四一八○○ニシァ其ノ增減率ハ原液群五•五五、 血液單位容積內白血球絕對數ハ原液群ハ四○○○○、三十分煮沸濾液群ハ五一三五○、六十分煮沸濾液群ハ六五四 三十分煮沸滤液群

Ł 食鹽水群ハ六•七ニシテ喰菌子ノ場合ト同様三十分煮沸濾液群ハ壓倒的ニ他ヲ凌駕セリ。 喰菌率へ原液群へ七・六、三十分煮沸濾液群へ一○・二、六十分煮沸濾液群へ六・五、 百二十分煮沸滤液群、三・三、 六·一一、六十分煮沸濾液群、七·五○、百二十分煮沸濾液群、五·四四、

食鹽水群ハ四・八五ナリキ。

三、所見總括

第一、第二實驗成績ヲ一括シテ第五十二表ヲ得タリ。

價ヲ獲得シ最上位ヲ占メ、 位ニシテ最下位トナレリ。 原液及ビ食鹽水注射動 各煮沸爐液注射動物ニアリテハ注射量ヲ○・五竓ヨリー・○竓ニ倍加シタルニ喰菌子数ハ之ト連行シテ増大シタル 物ハ反對ニ注射量ニ逆行シテ喰菌子敷ガ減退セリ。 六十分煮沸爐液、第二位、 原液群ハ第三位、 食鹽水群ハ第四位、 兩實驗ヲ通ジ三十分煮沸滤液群 百二十分煮沸濾液群、第五 ハ最大喰菌子

又實驗第二ニ於テモ各煮沸濾液群ハ略~一致シ而モ實驗第一ノ場合 白血球絕對數ハ實驗第一ニ於テハ各煮沸濾液及ビ食鹽水群 略 ` ヨリモ少シク大トナル 致セルガ原液群ハ是等ニ比シ少シク大ナリキ。 ガ原液及ビ食鹽水群ハ絕對數

喰菌率ニ於テモ 兩實驗ヲ通ジテ三十分煮沸濾液群ガ最大ヲ示シ、 百二十分煮沸濾液群 最小ナリキ。

/II 第八例

小トナリタリ

S·T、女、三十一歲

第五十八表	原滤液一•	○竓泮射後	ノ暗菌作用
躬丑 八久	<i>你</i> 你没一	少地往别饭	イ 門と 村口 月1

		血容血數 液積球	白增	白	血球	=	百 個	中
		單內絕	血減	淋巴球	1/1	性	多型	核
		位白對	球率	%	%	喰	菌	一子
注	射 前	8200	1.00	63.1	38.5	0	a	0
菌	30 分	5800	0.78	62.1	33.5	7.0	19.6	26.6
液 注 射	1時間	3900	0.49	41.3	49.6	6.0	16.6	22.6
菌液注射後經過時	2時間	8300	1.04	23.1	73.1	8.0	15.6	23.6
	+ 時間	5200	0.65	27.6	70.5	5.0	10.6	15.6
間	8時間	6400	0.80	35.0	62.6	3.3	5.3	8.6
總	和	29600	3.76	189.1	289.3	29.3	67.7	97.0

喰菌率=3.3

(三頭分平均)

穿刺

診斷

結核性胸椎炎

腸骨窩流注膿瘍

五年前ョリ脊椎炎ニ罹リ治療ヲ受ケ其ノ間八回

穿刺ヲ受ケ兩側腸骨窩

ョリ排膿セラル。

(昭和三年十月十五日)ニョリテ得タル膿

第五十九表 三十分煮沸滤液一・〇 竓注射後ノ喰菌作用

注	射 前	血容血數 液積球 單內對 位白對	白增 血減 球率 1.00	白 港巴球 % 55.0	加 球 中 % 43.1		百 個 多 型 菌 0	中 核 子 0
	30 分	6500	0.92	52.0	44.8	12.0	43.6	55.6
菌液注	1時間	5100	0.72	42.0	55.5	7.6	22.0	30.2
射後經過時間	2時間	7700	1.08	20.1	78.6	15.3	44.0	59.3
過時	4時間	6800	0.96	20.5	77.5	8.0	19.3	27.3
間	8時間	7750	1.09	18.0	73.5	11.0	26.6	37.6
總	和	33850	4.77	152.6	329.9	53,9	156.1	210.0

喰菌率=6.2

(三頭分平均)

第六十表 六十分煮沸滤液一•○竓注射後ノ喰菌作用

			711 66.11~		. / 11 100	20 213 11 /		
		血容血數 液積球	自物	白	血球		百個	中
		單內絕 位自對	血減	淋巴球 %	<u>中</u>	性多	9 型 南	<u>核</u> 子
			球率	70	70	喰	Ki	! -
注	射 前	8250	1.00	65.6	27.5	0	0	0
菌	30 分	6550	0.79	56.6	32.0	7.6	18.0	25.5
液注射	1 時間	5350	0.65	44.1	48.0	7.6	24.0	31.6
射後經過時間	2時間	6900	0.84	22.0	74.7	9.3	27.0	36.3
過時	4時間	7300	0.88	29.5	67.0	6.0	13.0	19.0
間	8時間	7400	0.89	29.6	67.0	6.0	14.0	20.0
總	和	33500	4.05	181.8	288.1	36.5	96.0	132.5

喰菌率=4.0

(三頭分平均)

稀薄ニシテ帶黄灰色ヲ呈シ内ニ乾酪樣物質ヲ混ズ。惡臭ナシ。普通培養

菌ヲ證明 ル後前記ノ方法ニョリテ原液及ビ三十分、六十分及ビ百二十分煮沸濾液ヲ得タリ。 一・○竓中約○•○○二一瓩 セ べ。 上記 ノ膿一五○竓ニ○・五%石炭酸加○・八五%食鹽水ヲ同量加 へ良ク攪拌振盪シ、

基上

細 タ

標準菌液 ニ放置シ

菌量

第六十一表 百二十分煮沸滤液一•○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球	白增	白	血球		百 個	中
	-	單內絕 位白對	血減 球率	淋巴球 /	% 1	性 多	型	核 子
注	射 前	7900	1.00	64.8	31.5	0	0	0
菌	30 分	5900	0.75	58.8	36.5	7.3	17.3	24.6
液注	1時間	4200	0.53	53.8	41.8	9.6	27.3	36.9
射後郷	2時間	6150	0.78	25.0	73.0	10.3	27.6	37.9
經過時間	4 時間	6480	0.82	24.8	71.6	9.0	21.0	30.0
間	8時間	6200	0.78	34.5	60.6	6.6	15.3	21.9
總	和	28930	3.66	196.9	283.5	42.8	108.5	151.5

喰菌率=5.2

(三頭分平均)

○•五%石炭酸加○•八五%食鹽水 第六十二表

一•○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球	白增 血減	自 淋巴球	血動	生多	百 個	核
		單內絕 位白對	球率	% C 3%	%	<u></u> 住 3	菌	1 f
徒	射 前	8080	1.00	51.5	45.8	0	0	0
菌	30 分	6100	0.75	32.5	57.6	10.6	41.0	11.6
液注	1時間	5050	1.62	32.1	67.6	10.3	30.6	40.9
後郷	2時間	10050	1.24	20.1	76.8	11.6	31.0	42.6
射後經過時	4時間	7300	0.90	26.5	68.3	11.0	20.3	31.3
間	8 時間	7400	0.92	31.5	65.1	8.6	15.6	24.2
總	和	35900	4.43	142.7	335.4	52.1	138.5	190.6

喰菌率=5.3

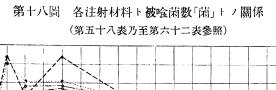
(三頭分平均)

各注射材料ト喰細胞数「喰」トノ關係 (第五十八表乃至第六十三表參照)

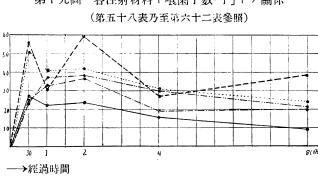


晝夜氷室內

8(時)



→經過時間



第十九周 各注射材料ト喰菌子數「子」トノ關係

「子」← 大數トナリ、三十分煮沸濾液群ハ二時間目ニ 沸濾液ハ何レモ原液ヨリ顯著ニ大ナリキ。 被喰菌數「菌」ハ原液群ハ三十分目ハ 一九・六ニシテ最 四四・〇ヲ示

百二十分煮沸滤液

ハ四二・八、

三十分煮沸濾液群ハ五三•九、

六十分煮沸濾液群、三六·五 食鹽水群ハ五二・一ニシテ煮

30

菌」←

滤液 群 示 最大數ニ達シ、 原液ヲ凌駕セ 五六·一、 食鹽水群ハ三十分目ニ最大敷ニ達シ四一・○ヲ示シタリ。 六十分煮沸濾液群、二時間目:二七·〇、 六十分煮沸濾液群、九六·〇、 り 百二十分煮沸滤液群ハ一〇八・五、 百二十分煮沸濾液群ハ同ジク二時間目ニニ七・六ニテ最大數 而シテ「菌」ノ總和ハ原液群ハ六七・七、三十分煮沸濾液 食鹽水群ハー三八・五ニシテ是亦煮沸

Ξ 喰菌子數「子」モ「菌」ト 相似タル 曲線ヲ示シ、 其 1 絶和ハ 原液群ハ九七・○、三十分煮沸濾液群ハ二一○・○、六十分

|十分煮沸濾液及ビ〇・五% 石炭酸加〇・八五% 食鹽水 實驗第一 原液、三十分煮沸濾液、六十分煮沸濾液、

百

〇竓注射後ノ喰菌作用

A

實驗結果

所見ハ第五十八表ョリ第六十二表迄及ビ第十七圖 IJ

注射後 次ニ減退セリ。而シテ「喰」ノ總和ハ原液群ニテハ二九•三、 九圖迄ニ揭ゲタリ。 現っ 二時間目ニ最大數ニ達シ、 菌體ラ В 包喰セル喰細胞數「喰」ハ各動物群 所見概括 四時間 目 八時 間 共ニ 目 菌 順 液

煮沸濾液群ハ ||三二•五、百二十分煮沸濾液群ハ ||五一•三、食鹽水群ハ||九○•六ニシテ煮沸濾液ハ何レモ原液ヲ凌駕シ、

特ニ三十分煮沸濾液ハ原液ノニ倍以上ノ喰菌子價ヲ擧ゲタリ。

略~同數ヲ示シタリ。 食鹽水群ハ三五九○○ニシテ原液及ビ百二十分煮沸濾液群ハ稍~小ナリキ。又三十分六十分煮沸濾液群及ビ食鹽水群ハ 百二十分煮沸濾液ハ三・六六、食鹽水群ハ四・四三ニシテ絕對數ノ場合ト同樣三十分、六十分煮沸濾液及ビ食鹽水ハ一致 シ原液及ビ百二十分煮沸濾液ハ稍~小ナリキ。 、二九六○○、三十分煮沸濾液群、三三八五○、六十分煮沸濾液群、三三五○○、百二十分煮沸濾液群、二八九三○、 血液單位容積內白血球絕對數ハ各運動群共菌液注射後白血球過少ヲ惹起セリ。 白血球增減率ノ總和ハ原液ハ三・七六、三十分煮沸濾液ハ四・七七、六十分煮沸濾液ハ四・○三、 而シテ白血球絕對數ノ總和 ハ原液群

食鹽水群ハ五•三ニシテ三十分煮沸濾液ハ著明ニ大、而シテ最小ナルハ原液群ナリキ。 喰菌率ニ就テ観ルニ原液ハ三・三、三十分煮沸濾液ハ六・二、六十分煮沸濾液ハ四・○、 百二十分煮沸滤液、五・二又

二、實驗第二原液、 三十分煮沸濾液、 六十分煮沸濾液、百二十分煮沸濾液及ビ〇・五%石炭酸加〇・八五%食鹽水二・〇

A 實驗結果

竓注射後ノ喰菌作用

所見ハ第六十三表乃至第六十六表义ハ第二十圖ョリ第二十二圖迄ニ揚ゲタリ。

2 所見概括

群ハ四四•九、六十分煮沸濾液群ハ四八•五、 間目ニ最大トナリ、 原液ヲ凌駕セリ。 夫ヨリ次第二減退スル傾向ヲ示シタリ。 百二十分煮沸濾液群ハ三六・二、食鹽水群ハ三五・五ニシテ煮沸濾液 而シテ「喰」ノ總和ハ原液群ニテハ一六・二、三十分煮沸濾液 公何

現ニ菌體ヲ包喰セル喰細胞數「喰」ハ原液群ハ菌液注射後二時間目ニ又各煮沸濾液群及ビ食鹽水群ハ菌液注射後

二時

被喰菌敷「菌」モ「喰」ト同様ノ推移ヲ示シタリ。 丽 シラ其ノ總和ハ原液群ハ四一・五、 三十分煮沸濾液群、一二六·二

原

六十分煮沸濾液群ハ 一三五•八、百二十分煮沸濾液群ハ 一〇二•五、食鹽水群ハ八七•八ニシテ煮沸濾液ハ何レモ原液ノニ

倍乃至二倍以上ノ「菌」ヲ獲タリ。

喰菌子數「子」モ亦「喰」 及ビ「菌」

ト同様ノ曲線ヲ示シタリ。

「子」ノ總和ハ原液五七・七、三十分煮沸濾液ハー七一

第六十三表 原滤液二・〇竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球 單內絕 位白對	白增 血減 球率	, 白 淋巴球 %	血 玩 中 %		百 個 型	中 核 子
注	射 前	800	1.00	58.5	35.6	0	0	0
菌	30 分	5400	0.63	58.3	54.0	3.6	12.0	15.6
菌液注射	1 時間	6450	0.75	33.3	59.8	3.0	8.6	11.6
後經	2時間	9250	1.07	21.8	75.5	4.6	10.6	15.2
後經過時間	4時間	6500	0.76	30.0	65.0	4.0	8.0	12.0
間	8時間	7000	0.81	37.3	56.0	1.0	2.3	3.3
總	和	34600	4.02	180.7	290.3	16.2	41.5	57.7

喰菌率=1.7

(三頭分平均)

第六十四表 三十分煮沸滤液二・○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數	白增	白	血球	= =	百 個	中
		單內絕	血滅	淋巴球	中	性多	型型	核
		位白對	球率	%	%	喰	菌	子
注	射 前	8750	1.00	61.3	3721	0	0	0
菌液注	30 分	5600	0.64	60.6	34.8	8.0	23.0	31.0
社 注	1時間	4850	0.55	51.5	33.3	10.3	31.6	41.9
後經	2時間	9500	1.08	28.8	69.1	10.3	29.3	.39.6
射後經過時間	4 時間	5900	0.67	32.0	64.8	10.3	29.0	30.3
間	8 時間	7260	0.83	46.0	48.3	6.0	13.3	19.3
總	和	33110	3.77	218.9	250.3	44.9	126.2	171.1

喰菌率=5.2

(三頭分平均)

第六十五表 六十分煮沸滤液二・○竓注射後ノ喰菌作用

-	7147 . 1			1717 DELTIN		33.77.100	20 123 11	
		血容血数 液積球	白增 血滅	白	血球		百 個	中
İ		單內絕		淋巴球	中	性 多		核
		位白對	球率	96	%		菌	子
注	射 前	8800	1.00	49.8	45.6	0	0	0
菌迹	30 分	4700	0.53	42.3	51.3	8.6	25.3	83.9
菌液注射後經過時間	1時間	5400	0.61	30.3	63.6	13.6	44.3	57.9
後經	2 時間	8750	0.99	14.5	83.0	10.0	24.6	34.6
過時	4時間	7500	0.85	22.3	74.0	9.3	20.0	29.3
間	8時間	7400	0.84	36.0	60.0	7.0	21.6	28.6
總	和	33750	3.82	145.4	331.9	48.5	135.8	184.3

喰菌率=5.5

(三頭分平均)

第六十六表 百二十分煮沸滤液二・○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數 液積球 單內絕 位白對	白增血減球率	拍巴球 %	血 中 %		百 個 型 菌	中 核 子
注	射前	8700	1.00	55.3	41.5	0	0	0
菌液	30 分	6250	0.72	41.5	42.1	7.0	18.6	25.6
注	1時間	5450	0.63	37.5	56.3	9.0	30.3	39.3
射後經過時間	2時間	11200	1.29	21.8	76.1	9:0	22.0	31.0
過時	4時間	7600	0.87	28.5	69.6	6.6	21.6	28.2
間	8時間	6900	0.79	38.5	59.8	4.6	10.0	14.6
總	和	37400	4.30	167.8	303.9	36.2	102.5	138.7

喰菌率=3.7

(三頭分平均)

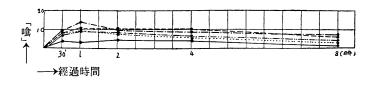
第六十七表 ○•五%石炭酸加○•八五%食鹽水 二•○竓注射後ノ喰菌作用

		血容血數液積球	白增 血減	自 淋巴球	血動	-	百 個	中核
1		單內絕 位白對	球率	% C 43C	 	唯	型	<u>ペ</u> 子
注	射 前	8800	1.00	64.5	33.6	0	0	0
菌	30 分	6600	0.75	52.0	47.1	8.0	16.3	24.3
液注射	1時間	6900	0.78	33.5	64.1	9.3	24.3	33.6
後經	2 時間	12400	1.41	24.0	75.0	8.6	26.6	35.2
後經過時間	4 時間	8050	0.91	29.5	68.0	6.6	14.3	20.9
間	8 時間	8050	0.91	40.1	54.1	3.0	6.3	9.3
總	和	42000	4.76	179.1	308.3	35.5	87.8	123.3

喰菌率=2.9

(三頭分平均)

第二十圖 各注射材料ト喰細胞数「喰」トノ關係 (第六十三表乃至第六十七表參照)



血液單位容積內白血球絕對數ハ各群共同樣ニ菌液注射後白血球過少ヲ惹起シタリ。

乃至三倍大ノ喰菌子價ヲ

擧ゲタリ。

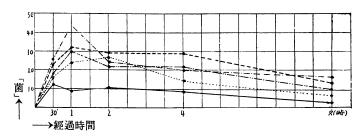
六十分煮沸濾液ハ一八四・三、

百二十分煮沸濾液ハ一三八・七、食鹽水ハ一二三・三ニシテ煮沸濾液ハ原液ニ比シニ倍

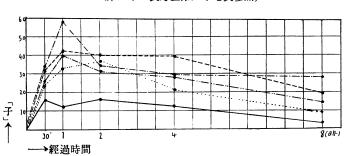
而

シテ八時間目ニハ各群共略

第二十一圖 各注射材料ト被喰菌数「菌」トノ關係 (第六十三表乃至第六十七表参照)



第二十二圖 各注射材料ト喰菌子数「子」トノ關係 (第六十三表乃至第六十七表参照)



第六十八表 各注射材料ニョル喰菌作用總括 (第五十八表乃至第六十七表参照)

實驗	注 射材料	白血球 絕對數	白血球 比率	喰	菌	子	率	原表
	原濾液	39600	3.76	29.3	67.7	97.0	3.3	58
第一	30分煮 沸濾液	33850	4.77	53.9	156.1	210.0	6.2	59
<u>-</u>	60分煮 沸滤液	33500	4.03	36.5	96.0	132.5	4.0	60
· ○ 竓	120分煮 沸濾液	28930	3.66	42.8	108.5	<u>151.3</u>	<u>5.2</u>	61
	食鹽水	35900	4.43	52.1	138.5	190.6	5.3	62
	原濾液	34600	4.02	16.2	41.5	57.7	1.7	63
第二	30分煮 沸濾液	33110	3.77	44.9	126.2	171.1	5.2	64
二(二•〇竓)	60分煮 沸滤液	33750	3.82	48.5	135.8	184.3	<u>5.5</u>	65
○鈍)	120分煮 沸濾液	37400	4.30	36.2	102.5	138.7	3.7	66
	食鹽水	42000	4.76	35.5	87.8	123.3	2.9	67

六十分煮沸濾液群、三三七五〇、 數ヲ得タリ。 八二、百二十分煮沸濾液群ハ四・三〇、 正常時白血球敷ニ恢復スル 又白血球增減率ノ總和ニ就キテハ原液群ハ四•○二、三十分煮沸濾液群ハ三•七七、六十分煮沸濾液群ハ三• 傾向ヲ示セ 百二十分煮沸濾液群、三七四〇〇、食鹽水群、四二〇〇〇ニシテ各群共略~一致セ ッ。 食鹽水群ハ四・七六トナリ是亦各動物群共略~ 白血球絕對數ノ總和ハ原液群ハ三四六〇〇、三十分煮沸濾液群ハ三三一一〇、 一致セリ。

・・・・・・・ 第二實驗結果ヲ一括シテ第六十八表ニ揭ゲタリ。

沸濾 低下 得 本 六十分煮沸濾液群ョ除 例 タ 液 セ ッ。 jν 群 = 於 喰 第三 テ 菌子價大小 而 ハ シテ 原液 位 實驗第一 六十分煮沸濾液群ハ ٠, 如 順 何 ナ 次 = キ 他 jν 於テハ三十分煮沸濾液群 ハ六十分煮沸濾液三十 量 實驗第一(一•○竓)ョ 於テ モ 僅 常 カ , = 最下位 差ヲ以テ第四位、 分煮沸濾液、 ガ IJ シ 最大喰菌子數ヲ示 Æ テ對照 實驗第二(二・〇竓)ノ 原液群 百三 タ jν 食體 分煮沸滤液 ハ 最小 水 シ、 注 食鹽 = 射 シテ 方 致 動 セ 物 水 ガ **第五位** が群之レ 喰菌作 食鹽 = Æ 劣リ 水 -用全體 ŀ = ナレリ。 原液 タ 次ギ第二位、 ĺ, 指 順 標 叉實驗第二 序 タ ٢ ナレ 亘 喰 り。 菌子 干 庎 於 ガ 卽

菌 摮 白 ガ 喰 血球 菌 示 率 サ Æ 絕 喰 對 數又 原液 菌 子 ハ ŀ 最 白 同 小 樣 血 球 增減 泩 シ テ 射 /是亦 量 此 ノ 率 食鹽 增 ハ 各 大 水 = 動 動物群ヲ 逆 = 劣リ 行 シ 通ジ、 タ ラ y_o 減 少 セ 各 ッ。 注 射量 丽 シ 7 **ラ三十分乃至六十分煮沸濾液** 通 ジ 略 ζ

3

IJ

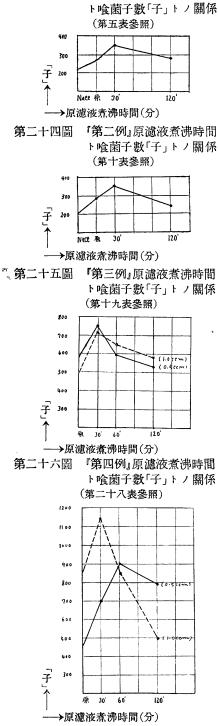
テ

最大ナ

jν

喰

第五章 全檢查成績 / 總括的考察



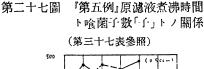
「第一例」原濾液煮沸時間

著 林=結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

原

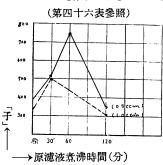
第二十三圖

六六七

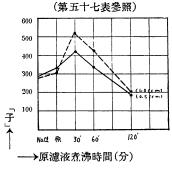


「子」↑ 300 30 60' 120 →原濾液煮沸時間(分)

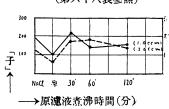
第二十八圖 『第六例』原濾液煮沸時間 ト喰菌子「數」子トノ關係



第二十九圖 「第七例」原滤液煮沸時間 ト喰菌子數「子」トノ關係



「第八例」原濾液煮沸時間 第三十圖 ト喰菌子數「子」トノ關係 (第六十八表參照)



全體

ノ標徴タル喰菌子ヲ各例ニ就キ各量ニ就キ曲線ニ示シテ第二十三圖乃至第三十

實驗結果ハ第五、

ţ

十九、

二十八、三十七、

四十六、

五十七及ビ六十八表二小

括

セ

ラ

 ν

タ 'n

是等ノ所見中喰菌作用

圖ヲ

′得タリ。

以上ノ八例十四實驗結果ヲ精

査ス

ıν

ニ各實驗群中最大喰菌子價ヲ得タルモ

ノ換言ス

 ν

バ最大喰燼作用ヲ

一發揮セ

シ

メ タ

v

六十分煮沸滤液 三十分煮沸滤液

九

Î

II,

(1-2)

ĮV (2),

VI (2)

VII (1-2)

いの例

四 ÎV V (2) VI (1), VII分例)

百二十分煮沸滤液

原 液

食鹽水

(VЭ例)

0

0

即チ三十分煮沸濾液ハ十四實驗中九實際(六十四%)ニ於テ最大喰燼作用ヲ發揮

セ

シ

メ最モ優秀ナリキ。

之ニ次ギ六十分

第六十九表 各滤液用量比較的小ナル場 合ニ得タル各例ニ於ケル「子」ノ平均價

海 液 種 類	用量	原濾液	三十分煮 沸滤液	六十分煮 沸濾液	百二十分	食鹽水 對 照
第一例	0.5	259.5	353.5		282.0	207.0
第二例	0.2	289.5	355.5		249.0	200.5
第三例	0.5	577.2	753.7	596.2	523.4	
第四例	0.5	462.6	700.2	899.9	794.9	
第五例	0.5	316.0	452.0	378.5	489.3	
第六例	0.5	396.3	517.1	757.0	344.5	
第七例	0.5	329.0	426.6	337.7	183.4	289.7
第八例	1.0	97.1	210.0	132.5	151.3	190.6
平均	0.52	340.9	471.0	517.0	377.2	222.0

第七十表 各滤液用量比較的大ナル場合 ニ得タル各例ニ於ケル「子」ノ平均價

減 液 種 類	用量	原濾液	三十分煮 沸濾液	六十分煮 沸濾液	百二十分 煮沸濾液	食鹽水 對 照
第一例						
第二例						
第三例	1.0	499.2	725.3	650.9	584.5	_
第四例	1.0	855.3	1145.7	863.6	498.5	
第五例	1.0	363.3	367.6	445.0	406.5	
第六例	1.0	341.9	504.6	441.4	304.4	
第七例	1.0	302.6	523.4	423.2	197.5	280.6
第八例	2.0	57.7	171.1	184.3	138.7	123.3
平均	1.16	403.3	573.0	501.4	355.0	202.0

各種濾液ノ用量ガ大多 卽 チ此ノ結果ニ 3

及ビ 第七十 表ヲ 得タ 求メタルニ第六十九表 ガ爲ニ各例ニテ得タル 余等ハ以上ノ關係ヲ更 『子』ノ値 ニー層明白ナラシメン ヨリ平均敷ヲ

百二十分煮沸滤液 六十分煮沸滤液

原

タリ。

然ルニ原液叉ハ食鹽水

同一

一材料、

同一

用量ニ於テハー

囘

ダモ煮沸濾液ヲ凌駕シ得ザリキ。

次ニ最小喰菌子價ヲ示シタ

Æ

ノ換言スレバ食燼作用最モ劣弱ナルモ

三十分煮沸濾液

煮沸濾液ハ四實驗(二十九%)ニ於テ最高喰燼作用ヲ惹起セシメ、百二十分煮沸濾液ハー實驗(七%)ニ於テ最高位ヲ占メ

0

六(■②、 六(Ⅲ)、 Į V V (1-2 VII (1-2) 例

原液、 即チ百二十分煮沸濾液 食鹽水 二(Ⅰ、Ⅱ例) 食鹽水ノ順序

ナル。

六六九

原 林=結核性脊 椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證

數二於テ○・五 ナリ シ 際二 喰菌作用 ノ效果卽チ『子』ノ平均 ハ左ノ如クナリタリ。

卽チ用量ガ平均大約○•五ノ時ハ各種濾液中ニテハ原濾液ヲ以テノ喰菌作用ハ最小ニシテ 三十分煮沸濾液ト 六十分煮沸 食鹽水 (^{222.0}) <原滤液 (340.9) <百二十分煮沸滤液 (377.2) <三十分煮沸滤液 (471.0) <六十分煮沸滤液 (517.0)

ノ間ニ在リ僅カノ差ヲ以テ六十分煮沸滤液ヲ以テノ喰菌作用ハ最大ニ示サレタリ。

更ニ大多數ニ於テ用量一•○ノ場合ヲ見ルニ次ノ結果トナリタリ。

滤液

ŀ

效果ハ伯仲

食鹽水 (202.0) /百二十分煮沸滤液 (355.0) <原滤液 (403.3) <六分煮沸滤液 (501.4) <三十分煮沸滤液 (573.0)。 際ニ 於テハ三十分煮沸濾液ヲ以テノ成績ハ最大ナリキ。

食鹽水 對 照

5.5

4.7

6.5

5.3

5.5

而

シテ用量ガ大多數○・五ノ場合ヨリモ用量ガ大多數一∙○

第七十二表 各滤液用量比較的大ナル場 合ニ得タル各例ニ於ケル喰菌率ノ平均價

第七十一表 各滤液用量比較的小ナル場

合ニ得タル各例ニ於ケル喰菌率ノ平均價

六十分煮 百二十分 沸濾液 煮沸濾液

11.0

18.2

12.9

24.9

7.8

4.0

13.13

7.2

5.7

15.3

19.6

9.8

6.1

3.9

5.2

9.1

三十分煮 沸濾液

7.4

8.3

21.1

16.3

9.1

10.2

10.6

6.2

11.15

原濾液

7.9

5.1

10.2

9.9

6.0

7.7

5.6

3.3

6.96

液類

竓

0.5

0.2

0.5

0.5

0.5

0.5

0.5

1.0

0.52

種

第一例

第二例

第三例

第四例

第五例

第六例

第七例

第八例

均

			• •••			
濾 液 種 類	用量 竓	原濾液	三十分煮 沸濾液	六十分煮 沸濾液	百二十分 煮沸滤液	食鹽水 對 照
第一例						
第二例						
第三例	1.0	8.2	17.2	14.9	7.8	
第四例	1.0	20.0	28.5	17.5	12.3	
第五例	1.0	8.8	6.1	13.3	7.6	
第六例	1.0	8.1	16.1	7.4	4.8	
第七例	1.0	7.6	10.2	6.5	3.3	6.7
第八例	2.0	1.7	5.2	5.5	3.7	2.9
平 均	1.16	9.07	13.88	10.9	6.63	4.8

働

力ノ

/ 大小ヲ

判定

ス

ıν

沸滤液 テ 合ナ ナ 確 jν ŀ ý, 證 = ガ 許容 セ ŀ 抗原性 即チ三十分煮 ラ ガ 是 セラル ν タ り。 ニ由 場

於ケル 相ナリ。 昇セリ、 ジテ『子』ノ數 ノ場合ノ方ガ全體ヲ通 大小 濾液を ョリシテ其際 是卽 故二 ニ子シノ 抗原性的 テ上行 ハ凡テト 値 能 位

ハ更ニ 喰燼作用 け最大

六七〇

效果ヲ觀察スルニ當リテ血中白血球總數ノ關係ヲモ顧慮シテアル『喰菌率』ニ就テ前同樣ニ各例、 成績ノ平均ヲポメタル

ニ第七十一表及ビ第七十二表ノ結果ヲ得タリ。

卽チ大多數○•五竓ノ用量ニテノ喰菌率ノ平均價ハ下ノ如シ。

食鹽水 (5.5) <原濾液 (6.96) <百二十分煮沸濾液 (9.1) <三十分煮沸濾液 (11.15) <六十分煮沸濾液 (13.1) 。

又大多數一•○竓ノ用量ニテノ喰菌率ノ平均價ハ下ノ如シ。

食鹽水 (4.8) <百二十分煮沸濾液 (6.6) <原濾液 (9.07) <六十分煮沸液 (10.9) <三十分煮沸濾液 (13.9)

濾液ノ抗原能働力ハ最大ニシテ最小喰菌率ヲ擧ゲタル原濾液ノ抗原能働力ハ最小ナリトノ判定ヲ許容シ得ルモノナリ。 最大ノ喰菌率ヲ示スコトヲ認メ得タリ。然シテ大多數○•五竓ノ用量ニ於ケル喰菌率ヨリモ大多數一•○竓ノ用量ニ於ケ ル喰菌率ノ方ガ全濾液ニ通ジテ亢進セリ、是即チ喰菌作用ノ上行位相ナリ、故ニ此際最大喰菌率ヲ擧ゲタルニ三十分煮沸 茲ニ於テカ余等ハ喰菌率ノ觀察ニ於テモ亦喰菌子ノ場合ニ於ケルト全ク 一致セル結果ニ到達シ、三十分煮沸濾液ガ毎常 以上ノ所見ハ確實ナル「イムペヂン」現象ニシテ結核性脊椎炎患者ノ有スル流注膿瘍中ニハ「イムペヂン」ヲ含有スルコ

トノ確證ナリ。

核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍ヨリ穿刺ニヨリテ膿ヲ採リ、 抑々蛋白體ノ存在ノ下ニテハ然ラザル場合ヨリモ喰細胞ノ喰燼能力ガ旺盛トナル 白體ノ含有ヲ指示ヌル根據ノ第一ナリ。 射群ガ對照トシテ用キラレタル食鹽水注射群ヨリモ喰燼作用ガ大ナリシ事實ニヨリテ立證セラレタリ。 (可疑性蛋白體除去)、 遠心、 陶土壁濾過等ノ操作ヲ加 其ノ儘直チニ、 へ、得タル濾液(原濾液)中ニハ尚蛋白體ヲ含有セル事ハ原液 若シクハ之レニー定量ノ食鹽水ヲ加へ五分間 モノナリ(廣瀨氏論文參照)。 之レ原液中ニ 余等ガ

而 シテ 力 jν 「非細菌性蛋白 耐 反シ、 煮沸性强大ナル點ニアリ、 前者ハ 體」ト「細菌性蛋白體」トノ差別 其ノ勢力ガ顯著ニ減退シ從テ喰燼作用モ劣等トナルモ 即チ攝氏百度ノ重湯煎中ニテ三十分間加熱スルコト ハ前 者ノ喰燼作用促進能 力
ハ耐
煮沸 1 ナ)) ° 然ルニ本實験ニ於テハ三十分煮トニョリテ後者ハ何等ノ變化ヲ 性弱 + ニ 反シ後者ノ 喰燼作用

組 沸、 喰菌率』 滤液、 若シ , ク 絕、 平 ハ 對、 此等 的多数 均 價 ノ分解産物ト 旣 (六十四%)ヲ以テ最大喰燼作用ヲ發揮スル 二示 シ タ シテノ非細菌 jν ガ 如 シ。 之レ原濾液 性 蛋白體二 中二 非ズ 含 シ 有 ・テ眞個. モノタル セ ラ ν 細菌 タ コトガ N | 喰燼作 性 蛋白體 立、證、 用促 ナ セト y h ラヽ 進 物質 い 7 タヽ 根據 リ_。ヽ ハ 膿 中一 ノ第二ナ 八 例 存 就テ 在 **,** セ 1 『子』及ビ

余等 タヽ ν り。 然、實 験材 トモ此ノ膿瘍ノ本質、材料トシテ得タルは 本源タル病竈ニボル結核性膿中ニ 潛在スル結核菌ノ産生セル水溶解、い染色法又ハ培養法ニ依ル細菌體 性物質が関ラ 混在セルコトハ最早や何レノ材料ニ於テモ總 絶テ 明 瞭、 ナト リハ終

存在 結核菌ガ人工培養基上ニ 細 菌 九一七)ニ依リテ發見 ガ明 性 山水溶解 白 ŀ ナリ 性 物質 タ y 類 脂蛋白體) 繁殖スル セ ラレ タ 際力、 ıν 事 ハ ・實ニシテ殆ンド 喰燼作用促進物質 jν . 勢力ヲ發揮スル事實ヲ確證セリ。 -凡テノ þ 同 重要ナル 時ニ 喰燼作用阻止物質 病原微生物ニ就 今ャ結核菌感染組 (勢力) キテ追究 1 織ト 立證 存 在 シ セ ス テ ラ jν ノ v コ 膿 ŀ 中 鳥 Æ 亦 潟 曩 其

沸濾液 煮沸性 **燼作用**: 質「イムペヂン」ガ 原濾液中ニ含有 **從作用** Æ 喰燼作用促進能 促 弱 效果ガ大ナ 黄色葡 テ 進 キ 物質 ゔ 喰菌作! ニハ ぺ 爲 萄狀球菌 ヂ = セ 喰菌作用上種族固有性ヲ缺ク 含有セラ 耐 攝氏百度ノ重湯煎中ニテ三十分煮沸 ン」破却煮沸濾液ヲ注射サレ ル事實ハ「イムペヂン」ノ ラ 用 煮沸性强大ナル 力ヲ有スル v 促 タ 進物質ガ jν 喰菌作用ガ三十分乃至六十分煮沸濾液ニ於テ優秀ナリ v 蛋 タ 白 物質 jν 體 初 ガ ガ細菌 メテ タメニ是等ノ タ (類脂蛋白體)ハ同等量宛含有 メニ 本 性 喰燼作 來有 存在ヲ除外シテハ 蛋 白 タ が故ニ「イ ス ナ iv 時間 場合ニ jν 崩 y 全 小 ŀ = . ・ナリ。 幅 ス ス テ w jν ハ ムペヂン」含有原液ヲ注射 機能ヲ發揮シ以テ最大喰菌作用ヲ惹起 ハ = Æ 一般異物ノ喰燼作用 何等 然ル 斷 ŀ 三十分乃至六十 = ジ ニ「イムペヂン」ハ喰燼作用促進 テ説明シ得ザ ノ障碍ヲモ受ケズ完全 3 セラレ リテ完全ニ非働 タ レド 分煮沸セラ Æ w ガ シ 原液中 事項ナリ。 旺 ŧ サ 性トナリ此 盛 Į v ŀ ニシ タ ν = ナ N 殘 ハ タ リ、本實驗ニ 場合 テ 之ト 卽 w IV プァ作用 サ原液・ Æ Æ 物質 コ =. セ 1 同 ノ 、 ハ 時 ハ ナ w 刎 方 Æ リ、 中二 モ消失ス。 細 = 於テ 般異 喰燼作 ノ ガ (菌性) ´ナリ。 從テ三十分煮 原液 Æ て煮沸濾 物 黄色 任意 3 甪 喰燼 y 丽 阻 IJ 方喰 モ シテ 止 液 モ ガ 耐 物 中 喰

狀

性 細 蛋 菌 分煮沸 白 性 體 蛋 白 モ 濾液 熱 體 的 作 耐 煮沸: 用ヲ テ ハ 受ケ 喰燼 性强 作 次 大 用 第 顯 ŋ = 著 破 ŀ 雖 壞 大 變 Æ 性 (最大)ニシテ百二十分煮沸! 定 シ 其 ノ 限 1 喰 度 燼 ガ 作 7 w 用 促 Æ 進 ノ = 能 力 **≥**⁄ 滤液 テ Æ 亦 此 ヲ 減 以テ 限 退 度ヲ ス ハ w 大多數 越 Æ 1 煮沸 ナ リ。 ノ場合喰菌子敷明 ガ 本實 長 キ 驗 = 失 於 ス ıν テ 場 白 ハ = 合 干 低

原因 全ク 此 處 = 存 ス

然ル

是等

考

察

=

滿

足

セ

ズ

原

液

毒

力强

ク

煮沸濾液

ハ

毒

万弱

キ

爲

『原液

7

注

射

サ

レ

タ

jν

場

ハ

ガ

中

毒

セ

ラ

F 分

セ

乃 細

至

菌

ŀ =

ク 動

シ 物

テ

喰細胞!

動

y 照 jν 面 全 喰 ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ 幅 コ セ 7 欠全ナ 燼 ŀ タ jν 機能 作 用 = 用 3 量ヲ Æ IJ IJ 拘 擧 テ 大 シ Ö ハ 其 小 ガ ゲ ラ 爲 テ Ŧī. ۲ ズ 然ラザル 喰菌 他 竓 = 原液ト 喰 面 3 y 毒 燼 作 作 芀 用 煮沸滤 Ô 用效果ガ **=** ノ 遂 大 行 ŀ 竓 7 = 液ノ喰菌作 察知 参與シ 小 增 優秀ナリ』 ŀ 加 7 シ シ 得 得 判 タ ズ、 ~° 定 jν :用效果 キ ス = ナ 煮沸濾液ヲ w ŀ 喰 ッ。 1 = 菌 討 足 作 大小ヲ 卽 w 論 用 チ Æ 泩 毒 1 促進力 招 力ノ 対サ = 寸 來 営ヲ シ シ 標 テ Æ タ 得 徵 第 タ 亦 w タ タ w ソ 場合 N Æ ıν 例 V 1 ガ 白 3 = = IJ 如 血球像ガ シ 第 + ハ 致連 テ 中 八例 觀 毒力說 7 毒 行 全然 呈 Ť = シ 起 至 ス

w w ×

實驗記

錄

ヺ

精查吟味

ス

余等 ナ

實驗

結

果

ハ 活

致 各 モ、 3 合

(第四、

Æ,

六、

八

例

第七十四表

第七十三表

原濾液乃至三十分煮沸濾液ニテ得

タル喰菌子價ノ百分率(「イムペヂ

滤液用

量(竓)

0.5

0.2

0.5

0.5

0.5

0.5

0.5

0.46

喰菌子ノ百分率

原濾液

100

100

100

100

100

100

100

100

三十分煮

136

123

130

151

143

130

130

ァ

亢進

セ

ッ。

此

1

事

實

Æ

盡

力過大說ヲ

否 亦

定

ス

w

=

足

IV

Æ

y 。

ŀ

ハ

全然無關

係ナ

ıν

Æ

1

ナ 叄

134.7

沸濾液

原濾液乃至三十分煮沸濾液ニテ得 タル喰菌子價ノ百分率(「イムペヂ

ン」含量ノ表現)					
例症	濾液用	喰菌子ノ百分率			
(F) 71E	菌(竓)	原濾液	三十分煮 沸滤液		
第三例	1.0	100	145		
第四例	1.0	100	134		
第五例	1.0	100	101*		
第六例	1.0	100	148		
第七例	1.0	100	173		
第八例	2.0	100	296		
平均	1.20	100	179.2		
		. 75			

* 之ハ平均ヨリ除外セリ

流 =

注 結

之ヲ 膿 核 瘍 性 中 脊 要 椎 = ス ハ 炎 w

細 細 菌 胞 性 性 蛋 水 白 溶解 體

六七三

ン」含量/表現) 原 例症 蓄 林 第一例 第二例 第三例 第四例 第五例 第六例 第七例 平 均

結核性 脊椎炎患者 ノ流注膿瘍中ニ 含有

v

刄

ィ

有性ヲ缺クコトガ立證サレタルナリ。 リテ喰遮作用促進物質ニハ何等ノ障碍ヲ與フルコトナクシテ完全ニ破却サル 而 性物質) ムペヂン」ハ結核菌ヲ人工培養基上ニ移シタル場合ト等シク攝氏百度ノ重湯煎中ニテ三十分間煮沸ス ヲ 含有シ(二) 細菌性蛋白體ハー面喰燼作用促進能力ト他面喰濾作用阻 、 コ ト、 止能力「イムペヂン」トヲ有 (四)同時ニ「イムペヂン」ハ種族固 ス w = ŀ ŀ

『喰菌子』増加ノ「プロセント」ヲ求メタルニ第七十三表及ビ第七十四表ノ結果ヲ得タリ。 今ャ余等ハ大多數○•五竓乃至一•○竓ノ用量ニ於テ得タル原濾液ノ『喰菌子』ヲ一○○ト爲シ三十分煮沸濾液ニテ得タル

卽チ大多數○•五竓ノ用量ニテハ原濾液ニテハ喰菌子ガ一○○ナルニ對シ三十分煮沸濾液ヲ以テノ喰菌子ハ一三四•七ナ 九•二ナリ。是レ果シテ何ヲ意味スルヤ。 或ハ大多數一•○竓ノ用量ニテハ原濾液ヲ以テノ 喰菌子ガ一○○ナルニ對シ 三十分煮沸濾液ヲ以テノ喰菌子ハー七

ニテハ○•四六)乃至一•○竓(平均ニテハ一•二)中ニ含有セラレタリシ「イムペヂン」ノ阻止的勢力ノ表現ヲ意味スルモ 故ニ最初ノ場合ニ於テ三四•七%、後ノ場合ニ於テ七九•二%ノ喰菌效果ノ差額ヲ示シタルハ是卽チ原濾液ノ○•五 上ニ大ナルベキノ理ナリ。何トナレバ三十分煮沸ニテ元來ノ免疫元性能働力ハ多少ナリトモ低下スベキ 若シ原濾液中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ阻止的勢力ガ無カリセバ ニ他ナラザルナリ。 其ノ喰菌子、三十分煮沸濾液 ŀ ·同等 ガ 放ナリ。 或 ハソレ (平均 ッ 以

一五頁、 テ得タル喰菌子ノ割合ハ一○○對一五七、或ハ一•○竓ノ用量ニテ一○○對一三○(日本外科寶函、 廣瀨硏之氏ハ結核性膿胸患者ノ膿中ニ「イムペヂン」ヲ立證シ其際用量○•五竓ヲ以テ原濾液ト三十分煮沸濾液 卽チ余ノ檢査ノ結果ト大體ニ於テ大差無シ。 第八表参照) 或ハ○五竓ノ用量ニテー○○對一三九(免疫研究業報、 第四三卷、第一五頁、 第六卷、 第一三表参照) ナリ 第一 3 第 IJ

八一ナッキ (Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd. 65, 1927, S. 576)。 今牧氏ガ肉汁培養ヲ材料トシテ(○•二竓用量)ノ研究ニヨ V バ原濾液、三十分煮沸濾液兩者喰菌子ノ割合ハ一○○對二九

四竓 月二十五日發行、 ノ用量ニテニ八○・一對七○○・七、 養ヲ以テノ 第一〇五三頁、 檢査ニテハ 第十一表参照)、 此 • 關係 卽チ一○○對二五○ナリキ ハ〇・二年 或ハ○・四竓 j 用量ニテ二四六・九對五五四、 1 Ħ 量ニテ二五五・八對八八七・四、 (東京醫學會雜誌、 即チー〇〇對二二四 第四十三卷、 第七 卽 チー〇〇對三 號 昭 和 或 四 ۱ر 年七 O Ŧī.

'n

キ

(同誌同號、

第一〇七三頁、

第十九表参照)

急性 イ 材料中ノ「イムペヂン」含量ハ純 ムペ 及生シタ ラ値 |化膿性腸筋炎膿中ノ「イムペヂン」ノ ヂ 菌株モ異り培養基時日等モ劃一ニ非ザル ıν |含量ハ純培養中ニ於ケルヨ 膿中ノ「イムペヂン」含量ハ純正培養中ニ於ケル 正培養中ニ 立證、 リモ普通小ナルモノ 含有セ 東京醫學會雜 ラ ガ 故二 レ居ル 必ズ 誌 ۴ Æ シ 解 ノヨ ム モ 一 第四十四 釋 ~ ス y ヂン」ノ含量 ルコ 致 Æ スル 大ニシテ 慢性炎 トヲ 卷 ヲ要 得可き 第六號參照)。 セ 3 y ズ ŀ ハ = 小 似 雖 症 ŧ ナ タ y ıν 何 = ガ 3 ν 拙 リテ 如 = 著 シ。 シ 「白色葡萄 發生 テ モ 卽 シ チ 急性 體 タ 狀 jν 3 球菌 炎症 膿 リ 得 中 タ 性

٤′ 療 仐 テ是認 Ŀ P 結核性 ニハ セ 流 ラ 流注膿中ニハ「イムペヂン」ガ 泩 N 膿 ~ 7 可及 的早期ニ、 而 シ テ長期間瀦 含有セラレ居リテ喰燼作用ヲ非常ニ 溜 セ シ メ ヌ 樣 = ナ w ~ ŋ 頻々ト 阻害スル 排 出 = ス jν ŀ ガ 3 立證 ŀ ŦĬ 合 乜 理 ラ v 的 タ り。 然 ノーツ ラ ハヤ

ナ ~ ス y_c jν 能 タ 一高度ノ 流 ハ ザ 多分「イ ガ 注 膿ヲ 如 N 抵 シ ナ /早期ニ ゚゙゚゚゚゚ 抗 ム 九カヲ 有 然 レド 從來ノ治療法 ヂ 排 ン」ハ モ「イムペヂン」ハ攝氏百度 出 ス ıν シ 蛋白質ヲ疑固 Ŧ タ ノナリ。 ・ jν ノミ ニテ ハ = 流 從 テ セ ハ 來ノ研究ニテハ「イムペヂン」ヲ消 注膿ヲ排 シムル一切! 間 斷 ナク (ノ高 出 在ノ下ニ ロシタル 病竈ョリ産生 熱ヲ 化學的物質 ベキヤ。 五分間: 跡へ「ョー 位作用 セ 乃至 ラル ドフ ーハ「ヨ ・「イ セ ォ 却 シ ル セ ム 1 ム ムペヂン」作用 シ ıν グ ۲, メ コ ・フォ ŋ 得 ŀ 、スリ ıν = ıν 化學的 3 ン」ヲ ム y グ ァテ y = 注入ス 向ツ 物質 ハ ス 決 y テ シ ン」ノ ハ 未ダ テ傷 何等 ıν 1 知 害 方 如 ラレ 對 法 ラ ヺ゙ 抭 Æ 廣ク 居 ヲ 1 ザ ザ モ = 在、 iv 為

ニモ拘ラズ 原 = 組 織ヲ 一於テハ喰燼 傷害ス N コ 作、 ŀ 用**、** 無 **ر در** ク 旣、 シ テ = • 含 而 有 シ テ セト _ イ ラゝ い 厶 居、 ぺ ,v ヂ イン ンニ ム) ~`` 對 チい 抗 ソ _ ノヽ 得 存、

以テ結核菌ノ「イ 故ニ令後研究ノ 驗管內及ビ臨牀上二方面ノ研究結果 法 口 故二 適當ナル 差 一敢テ ナ シ 當 結核菌煮沸発疫元ヲ使用 ~ リ煮沸免疫元ノ局所注入ニ於テ之ヲ求ム可シ。 ŧ 結果トシ カ、或ハ連鎖狀球菌、 ムペヂンニ對抗セシ テ結核性流注膿瘍 セザル ニョリテ決定セラルベシ。 葡萄狀球菌等ノ メ結核菌ニ べ ハ 可 カラザル 及的早期ニ 對 スル 結核菌ニ ノ理由無ク何等カノ適當ナル煮沸発疫元ヲ索 喰燼作用ヲ旺盛ナラシ 度々排出セ 然ラバ如何ナル煮沸発疫元ヲ選ブ可 對シ非特殊性ナル煮沸発疫元ガ可 「イムペヂン」ノ 喰燼現象阻止作 シ メ 且,ッ 其際 ムル コ ト 一定ノ煮沸発疫元ヲ局 方針ガ治療 甪 ナ + N カ = ハ べ 菌種 法 キ 結核菌煮沸免疫元 公上ニ カ。 求 所ニ ムベ 族 固有性無 コハ今後試 注入シ 確立 キナリ。 ラ テ

Fermente)ョ立證シ得ヌナラバソハ多分「イムペヂン」ノ喰燼作用阻止能働力ノ强大ナル結果ニ他ナラ 收ヲ助 白血球ノ喰燼作用ヲ何等カノ方法ヨリテニ賦活シテ以テ「イムペヂ 誘致セ э | ツ 結 ₹ 提 ۲ = ŀ, シテ採用 性流注膿ノ テ 言ヲ爲スニ ラレ來リテ 成 フォ Æ セ 新 ン 鮮ナル ŀ ム セ ス グ ラル ´ モ、ソ 至リシ所以ナリ。 病理ノ本態ノ主要ナル點ナリ。 ıν y 白 = 、スリ ベキ 一在リト 血球ヲ誘致スルニハ旣ニ業ニ十分ナリ。 レ × ガ「イムペヂ ・ナリ。 稱 1 注入ハソ セラル。 是レ余等ガ「イムペヂン」ノ病理學的認識ニ /ン」/ 然レ V = 阻止作用ニ逢ヒテ喰燼作用ヲ十分ニ發揮スル ۴ 3 Æ y 流注膿中ニハ 「ヨードフォ テ活潑ナル 白血球ヲ誘致シ N 流注膿ニ於テ缺ク 他ノ急性炎症ノ膿ト異リテ蛋白消化酵素 ム」ノ ン」勢力ニ ′ 作用ア 對抗ス 立脚シテ 以テ w **=** įν ŀ 流注膿ヲ消化 ıν 所ハ非常ニ大量ニ新鮮ナ ヲ 結核性流注膿瘍ノ治療 変セズ コトガ今後ニ於ケル = ㅏ シテ結核菌 能ハザル シ、 液 ザ 化 w 1 點ニ セ べ (Proteolytische 新治療方針 産生スル シ。 シ jν × 在リ、是即 關 故ニ其 自然 白 Ú 球 上 物 吸

結核性流注膿中ニハ「イムペヂン」ノ存在 ムペヂ 存在シテ流注膿 Ń `ン _ ,>, 中~ 流注液中 吸收セラレ 中二於ケル喰燼作用ヲノ , テ全身的ニモ喰燼作用ヲ阻害スル 3 止リ居ルナラン。 ス jν = ŀ 然 3 ヺ゙ 阻害 立 ۴, 證 Æ ス セ 病勢 ラレ jν モ ヤ 1 タ 進行 否ヤ ッ。 ナ ノリヤ、 然ル ト共ニ此ノ「イムペヂン」物質ハ全身ニ , 點ナリ。 或 妶 ハ「イムペヂン」勢力ヲ荷へ 疑問 想像スルニ病勢ノ アリ。此 ノ「イムペヂン」ハ 進行 ·H* 菌 物質 Æ 吸收 流 注 膿 此 セ ラ、 部

述

トナ 以テ全身的ニ喰燼作用ヲ阻害 y, 結核性: 流注膿瘍ヲ y 有スル 進入スル 患者ガ病勢ノ進行 一切ノ病原菌ニ ス IV ナラン。 此 對スル抵抗力モ衰 ァ ト共ニ全身榮養不良ト 場合ニ於テハ喰燼作用全體 へ來ルナラン。 ナ **ツ** 般 三衰 = 然シテ 微 抵 抗力 スル 想像 コト故消化管ノ消化吸收 1 減 ハヨ 退 ス ク事 jν コ 實卜 ŀ ۱ر 一致ス 周 知 jν 八不 ガ 如 良

是等ハ凡テ「イムペヂン」ノ阻

|止的勢力ノ全身性ノ發現トシテ認識セラル

~*

キナリ。

ッ。 トナクシテ、而シテ細菌性各種炎症特ニ結核症ノ治療ニ從事セント欲スルガ如キハ甚ダ學術ノ進步ニ後レタル者ト謂フザン」勢力ヲ如何ニシテ破却スペキカノ著目ニョリテ進步スペキナリ。故ニ今日ニ於テハ「イムペヂン」作用ヲ認識スルコザン」勢力ヲ如何ニシテ破却スペキカノ著目ニョリテ進步スペキナリ。故ニ今日ニ於テハ「イムペヂン」作用ヲ認識スルコ野)ノ如キハ此ノ方面ニ於テハ注目スペキ研究結果ナリ。故ニ一般細胞感染殊ニ結核感染ニ際シテハ治療方針ハ「イムペ野)ノ如キハ此ノ方面ニ於テハ注目スペキ研究結果ナリ。故ニ一般細胞感染殊ニ結核感染ニ際シテハ治療方針ハ「イムペ 此 jν 故ニ結核菌 X 線 ノ 時ハ治療上ニハ有用ニシテ従テ之ニョ 放射ニョ ガ 局所性病竈ニ於テ生存 リテ「イムペヂン」ガ全部ニアラズト シ居リテモソレヨリ生産 リテ結核患者ハ從來ョ Æ 鬼二角二多少二テモ破 セ リモ合理的ナル治療方針 ラル、「イムペヂン」作用 却セラレ得ルモノナルコトノ立證 = = 對抗スル 3 リテ救濟 1 方法ガ セ ラ 一發見セ 得 可 キナ ラ

第六章 結

疑固 ○•八五%食鹽水ヲ 取リ此等五種ノ試驗材料ヲ 健康海猽 重湯煎中ニテ三十分、六十分及ビ百二十分間 宝白 結核性脊椎炎患者(八例)ノ混合傳染無キ純粹ノ流注膿瘍 ヲ 、除去シ、 **殘リタル液成分ヲ陶土壁ニテ濾過シ原液ヲ得** 加熱シ三種 ノ腹腔内 ノ煮沸濾 グョリ 穿刺ニョリテ膿ヲ無菌的 = 液ヲ製シ、一方原液ヲ作 注射 此ノ 原液ノ一部ヲ更ニ攝氏百度ニテ沸騰シ シ置き流血中對黃色葡萄狀球菌喰燼作用 w ニ採集シ五分間 = 用 中タル ○•五%石炭酸 煮沸 ッ 3 r リテ N 加

原液注 一射動 物 ハ食鹽 水 泩 射動 物 3 リモ | 喰燼作| 用 大ナリ キ。 檢

シタ

jν

_ =

又煮沸 滤液注 射 動 畅 喰燼作用 原液、 從テ食鹽水注 山射動物 遙カニ大ナリ

3

ŋ

Æ

丽 シ テ 種 濾液 |結核性脊椎炎患者ノ流注膿瘍中ニ含有セラレタル「イムペヂン」ノ立證 中三十分煮沸濾液注射動 物一 於テ最大喰燼作用ヲ惹起 シ、 六十分煮沸濾液 注

差

林

ヲ以テ之ニ次ギ、百二十分煮沸濾液注射動物ハ遙カニ小ナリキ。

五 モ判然タル差別ヲ示シタリ。 ハレテ略~均等ト 各注射材料ヲ毒力ノ遙カニ大ナル ナリ従テ毒力標徴タル血液像ガー 一菌液ノー 定量ト 致スルモ 合併シテ注射スル ノニシテ、 以上ノ所見ハ總テ此ノ毒力均等ナル 時 ハ注射材料個々ノ毒力ノ差ハ菌液ノ毒力ニ蔽 場合ニ 於テ

コトヲ明白ニ 蛋白體ニ非ザル (膿)中ニ於テモ必ズ「イムペヂン」ヲ含有シ得ルコト、 是レ原液中 セ jν コトヲ 立證シ得タル (從テ膿)中ニハ蛋白體ガ含有セラレタル モノナリ。 ト同時ニ 細菌性蛋白體パ 而モ「イムペヂン」ハ種族的固有性ナク一般異物 **=** ١, 人工培養基ニ産生セラレタル場合ノミニ 而モ 此ノ蛋白體ノ一部分ハ細菌性蛋白體ニシテ非細菌 ノ喰燼ヲ 一限ラズ 阻 感染組織 害スル 性

凡テノ病原菌ノ侵入ニ對シ殆ンド全ク無抵抗ニシテ細菌性合併症若シクハ ニ於ラ「イムペヂン」ヲ産生シ、 結核性患者ノ一般抵抗力ノ弱ク消化管ノ消化吸收モ不良トナリ些細ナル外界ノ 就中、 喰燼作用ヲ衰退セシムルガ爲ナリ。 混合傳染ヲ起シ易 刺戟ニテモ重大ナル 理 由 ハ = 反應ヲ示 菌 體 ガ 組 シ、 叉

定ノ煮沸免疫元ヲ注入シ以テ白血球ヲ賦活スベキナ 疫元ノ方ガ適當ナル ル樣ニシテ且ツ同時ニ「イムペヂン」勢力ニ對抗スル 放ニ流注膿瘍ハ早期ニ其内容ヲ排出セシメ且ツ可及的屢~之ヲ行ヒ以テ一刻ニテモ「イムペヂン」ヲ組織中ニ ベ キ 力 = 關シテハ今後ノ研究ニ待ツ可シ。 ゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚ ノ方針ヲ取ル可シ。 = ν ガ結核菌自身ノ煮沸免疫元タル 完) 此 ノノ目的 向ッ テ ハ ベキカ或ハ他ノ 流注膿ヲ排 出 菌 タ 跡へ一 留 ーメザ